

資 料 編

練 馬 区

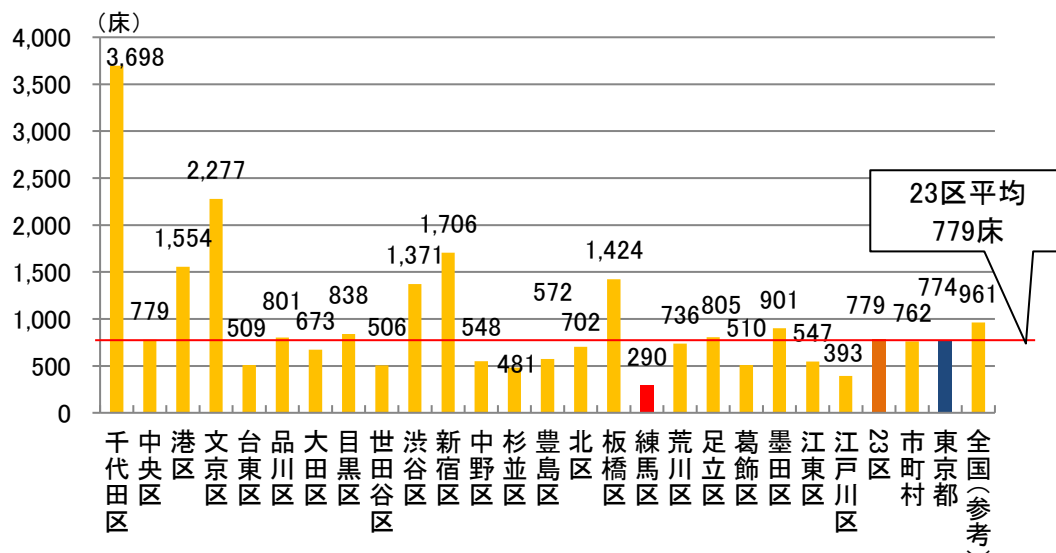
目次

1	練馬区の病床数	1
2	医療施設数	2
3	病院・診療所の病床数	3
4	訪問診療対象患者数	4
5	看取り件数の推移	5
6	在宅医療関係施設	6
7	訪問看護利用者数・訪問看護事業者数	7
8	人口推移	8
9	将来推計人口	9
10	患者数の推計	12
11	区民が受診する医療機関の所在地の状況	15
12	主要死因別死亡数	18
13	病床機能別病床数	19
14	救急医療	24
15	ICT ネットワーク	31
16	在宅医療	32
17	年齢階層別入院患者数の推計	42
18	区と医療圏の小児救急医療の提供体制	52
19	首都直下地震等における被害想定に対する災害拠点病院数の状況	53
20	母親の年齢階級別出生数に関する構成比	55
21	外国人の増減数	56
22	特定健康診査等の実施状況	57
23	医療環境に関するアンケート集計結果	61

1 練馬区の病床数

- ・人口 10 万人あたりの一般・療養病床数が平成 29 年月 1 日現在、290 床です。これは 23 区平均の約 1/3 であり、23 区で最も少ないです。

図表 1: 人口 10 万人あたり病院における一般・療養病床数の比較 (平成 29 年 6 月 1 日現在)



出典：東京都福祉保健局「平成 29 年（2017 年）医療機関名簿」、住民基本台帳人口「平成 29 年（2017 年）6 月 1 日現在」

2 医療施設数

- ・ 区内には 19 の一般病院と 22 の有床診療所があります。
- ・ 病院数を人口 10 万人あたりの数で比較すると、区は 2.6 であるのに対して、東京都は 4.9、医療圏は 5.1 であり、東京都・医療圏と比較して区は半数程度です。特に一般病院の数が少ない状況です。
- ・ 一般診療所数を人口 10 万人あたりの数で比較すると、区は 76.1 であるのに対して、東京都は 96.8、医療圏は 87.5 であり、東京都・医療圏と比較して区は若干少ない状況です。
- ・ 歯科診療所を人口 10 万人あたりの数で比較すると、区は 63.8 であるのに対して、東京都は 80.1、医療圏は 73.6 であり、東京都・医療圏と比較して区は若干少ない状況です。
- ・ 薬局を人口 10 万人あたりの数で比較すると、区は 42.7 であるのに対して、東京都は 48.6、医療圏は 48.3 であり、東京都・医療圏と比較して区は若干少ない状況です。

図表 2：人口 10 万人あたり医療施設数

(単位：箇所)

施設	東京都	区西北部医療圏	練馬区	実数
病院	4.9	5.1	2.6	19
うち一般病院	4.5	4.9	2.4	17
うち精神科病院	0.4	0.2	0.3	2
一般診療所	96.8	87.5	76.1	547
うち有床診療所	3.3	3.5	3.1	22
歯科診療所	80.1	73.6	63.8	459
薬局	48.6	48.3	42.7	307

出典：東京都および医療圏：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）医療施設調査」、住民基本台帳人口
 平成 26 年（2014 年）1 月 1 日現在
 練馬区：関東厚生局「保険医療機関・保険薬局の指定一覧（平成 28 年（2016 年）10 月 1 日現在）」、住民基本台帳人口平成 28 年（2016 年）1 月 1 日現在

3 病院・診療所の病床数

- ・ 一般病床数を人口 10 万人あたりの数で比較すると、区は 227.2 であるのに対して、東京都は 645.4、医療圏は 574.4 であり、東京都・医療圏と比較して区は半数に満たない状況です。
- ・ 療養病床数を人口 10 万人あたりの数で比較すると、区は 86.8 であるのに対して、東京都は 173.5、医療圏は 198.6 であり、東京都・医療圏と比較して半数程度です。

図表 3：人口 10 万人あたり病院・診療所の病床数

(単位：床)

	東京都	区西北部医療圏	練馬区
一般病床	645.4	574.4	227.2
病院	614.5	545.1	193.6
診療所	30.9	29.3	33.7
療養病床	173.5	198.6	86.8
病院	172.0	196.1	85.4
診療所	1.5	2.5	1.4

出典：東京都および医療圏：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）医療施設調査」、住民基本台帳人口

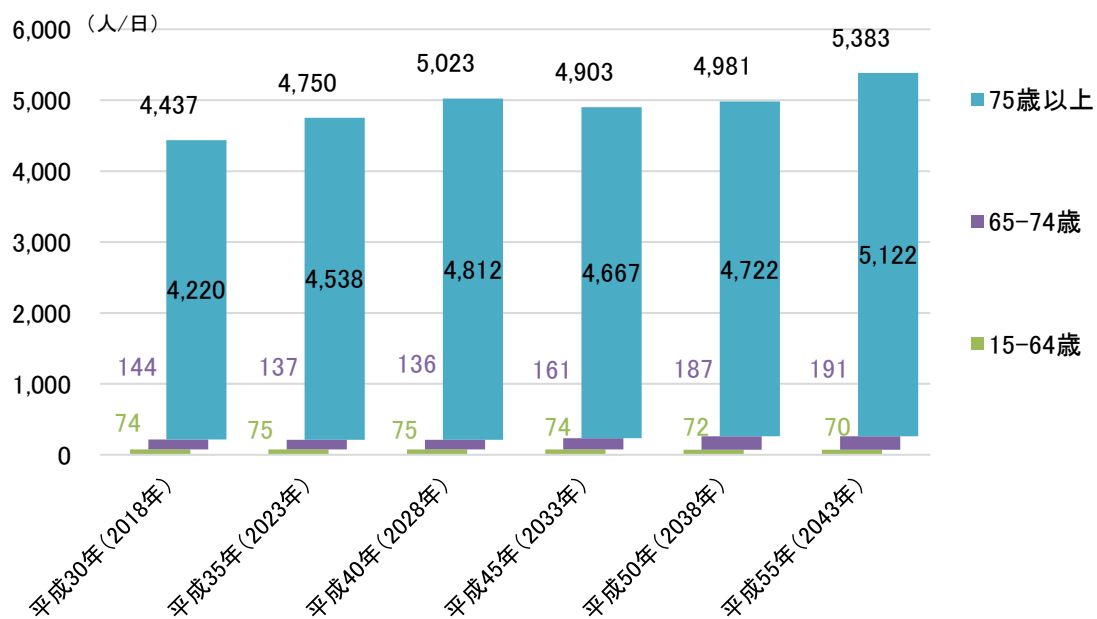
平成 26 年（2014 年）1 月 1 日現在

練馬区：関東厚生局「保険医療機関・保険薬局の指定一覧（平成 28 年（2016 年）10 月 1 日現在）」、住民基本台帳人口平成 28 年（2016 年）1 月 1 日現在

4 訪問診療対象患者数

- ・ 訪問診療対象患者数は「15～64 歳」は減少傾向にあるのに対して、「65～74 歳以上」「75 歳以上」は、増加傾向にあります。

図表 4：練馬区の訪問診療対象患者数の推計（患者住所地ベース）



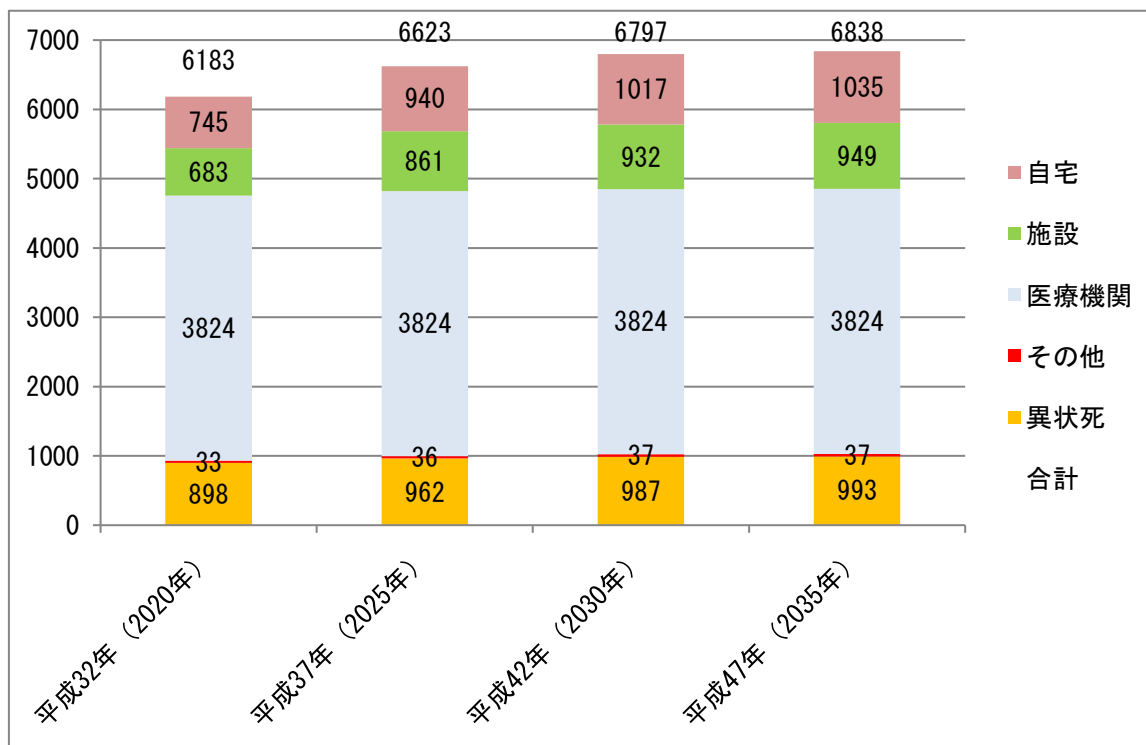
※区の 0～14 歳の訪問診療対象患者は 0 人/日

出典：厚生労働省「医療計画作成支援データブック「医療圏内患者の受療圏の把握及び地域医療指標の評価」ツール」、練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

5 看取り件数の推移

- ・ 練馬区の看取り件数は、「医療機関」は横ばい傾向にあり、「異常死」は平成 42 年以降減少傾向になります。
- ・ 「自宅」「医療施設」「その他」は、増加傾向になると推計されます。

図表 5：練馬区の看取り件数の推計



出典：練馬区「死亡小票データ（平成 23 年（2011 年）1 月 1 日～平成 27 年（2015 年）12 月 31 年の 5 カ年分）」、練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）および国立社会保障・人口問題研究所の将来生存率を参考に練馬区医療環境整備課推計

6 在宅医療関係施設

- ・在宅療養支援診療所¹は、東京都・医療圏と比べて、区は若干少ない状況です。
- ・在宅療養支援病院²は、東京都・医療圏と比べて、区は半数程度となっています。
- ・在宅療養後方支援病院³は、東京都・医療圏と比べて、区は半数程度となっています。
- ・在宅療養支援歯科診療所⁴は、東京都と比べて若干少ないですが、医療圏と比べると多い状況です。

図表 6：在宅医療関係施設の人口 10 万人あたり施設数

(単位：箇所)

	東京都	医療圏	練馬区	実数・病院名
在宅療養支援診療所	51.9	60.7	49.0	76 施設
在宅療養支援病院	3.2	4.2	1.9	3 病院 スズキ病院 田中脳神経外科病院 大泉生協病院
在宅療養後方支援病院	1.0	0.9	0.6	1 病院 練馬総合病院
在宅療養支援歯科診療所	19.6	17.4	19.3	30 施設
在宅患者訪問薬剤管理指導料算定薬局	168.1	165.7	158.7	246 施設

出典：関東厚生局「平成 28 年（2016 年）6 月 1 日現在の届出」、平成 28 年（2016 年）住民基本台帳

¹ 在宅療養支援診療所…在宅療養を希望する患者に、その地域で主たる責任をもって定期的に訪問診療を行う診療所。地方厚生(支)局長に届出をして認可される診療所の施設基準のひとつ。

² 在宅療養支援病院…在宅療養を希望する患者に、その地域で主たる責任をもって定期的に訪問診療を行う病院。地方厚生(支)局長に届出をして認可される病院の施設基準のひとつ。

³ 在宅療養後方支援病院…在宅医療を提供する医療機関（在宅療養支援病院や在宅療養支援診療所）の求めに応じて、入院を希望する患者の診療が 24 時間可能な体制を確保している一定の施設基準を満たした施設。

⁴ 在宅療養支援歯科診療所…在宅療養を希望する患者に、その地域で主たる責任をもって定期的に訪問診療を行う歯科診療所。地方厚生(支)局長に届出をして認可される歯科診療所の施設基準のひとつ。

7 訪問看護利用者数・訪問看護事業者数

- ・ 訪問看護利用者数は、年々増加傾向にあります。
- ・ 訪問看護事業者数は、平成 27 年度までは増加傾向にあり、その後横ばい傾向です。

図表 7：訪問看護利用者数の推移

(単位:人 ※各年度1年間の累計数値)

年度		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成 27 年度	H28 年度
訪問看護利用者	介護給付	19,862	21,904	24,385	28,343	31,941
	予防給付	650	809	953	1,418	2,370
	計	20,512	22,713	25,338	29,761	34,311

出典：練馬の介護保険—平成 28 年度実績報告—

図表 8：訪問看護事業者数の推移

(単位:事業者数 ※各年4月1日現在)

年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	H28 年度	平成 29 年度
訪問看護事業者	35 (35)	47 (47)	52 (52)	53 (53)	52 (52)

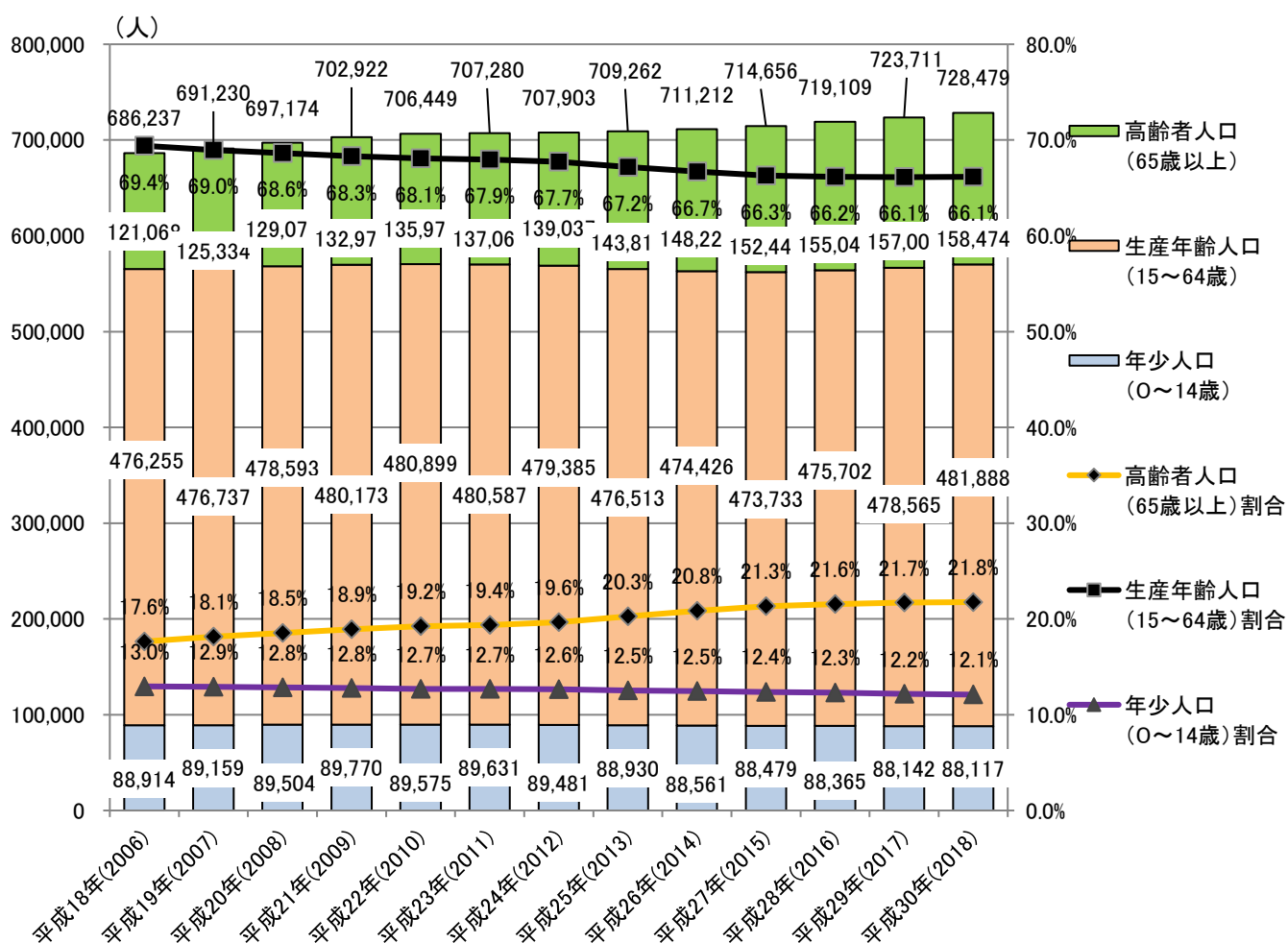
() 内は指定介護予防サービス事業者の数

出典：練馬の介護保険—平成 28 年度実績報告—

8 人口推移

- ・ 総人口は、平成 18 年（2006 年）の 686,237 人から 30 年（2018 年）には 728,479 人と一貫して増加しています。
- ・ 年齢階層別では、年少人口（0～14 歳）は平成 21 年の 89,770 人をピークに減少傾向にあります。生産年齢人口（15～64 歳）は平成 22 年（2010 年）の 480,899 人をピークに、減少傾向にありますが、平成 28 年（2016 年）から増加傾向に転じます。一方、高齢者人口（65 歳以上）は、急速に増加しています。
- ・ 総人口に占める割合については、年少人口と生産年齢人口は微減であるのに対し、高齢者人口は増加し続け、平成 27 年からは 21%を超えています。

図表 9：練馬区の人口推移

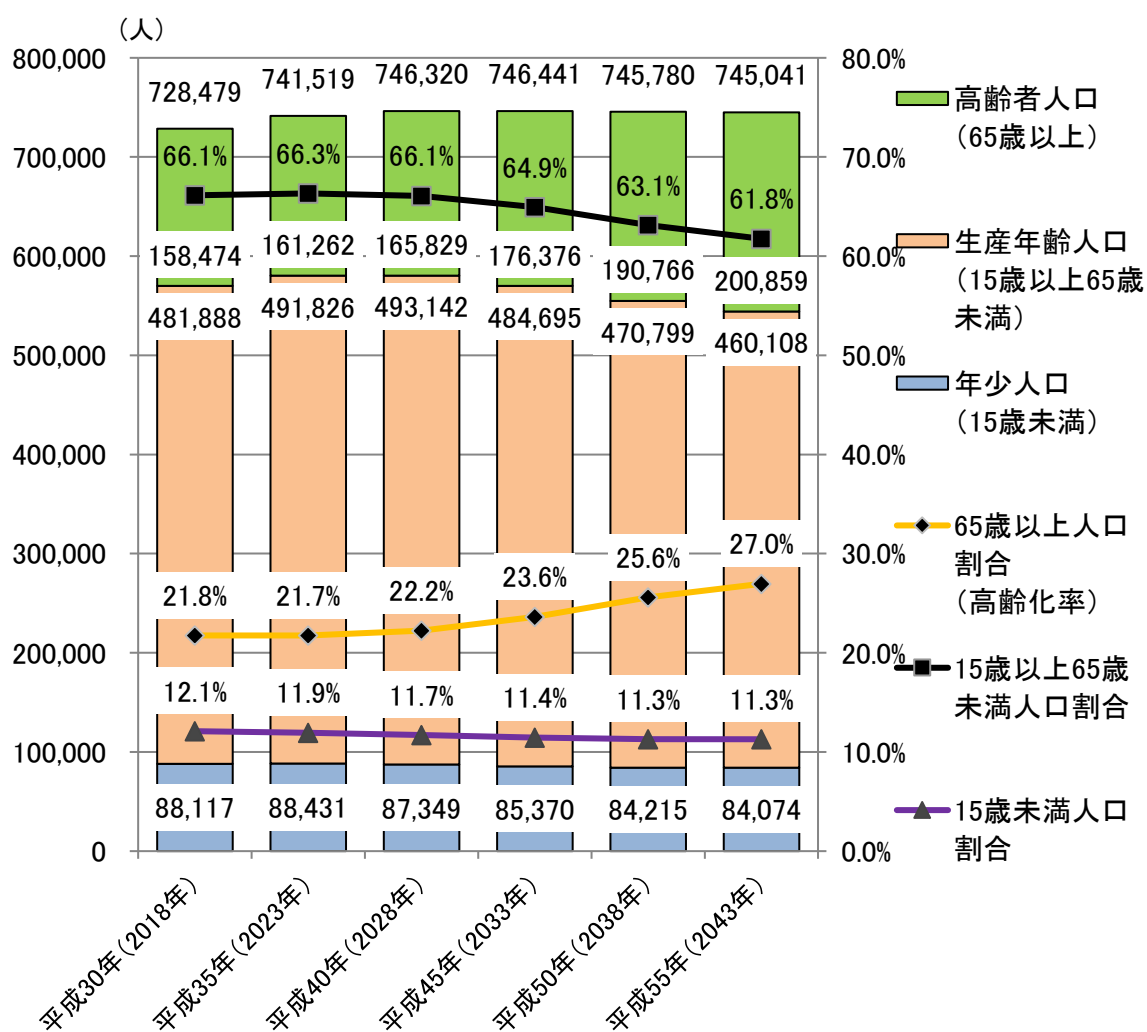


出典：練馬区「住民基本台帳」（外国人を含む。各年 1 月 1 日現在）

9 将来推計人口

- ・ 練馬区の人口は、平成 45 年（2033 年）にピークを迎えた後、緩やかに減少する一方、高齢者人口はその後も引き続き増加します。
- ・ 平成 40 年（2028 年）には高齢者人口が約 166,000 人、高齢者人口割合が 22.2%であるが平成 55 年（2043 年）には高齢者人口が約 200,000 人、高齢者人口割合が 27.0%と、高齢者人口、割合ともに増加することが予測されます。

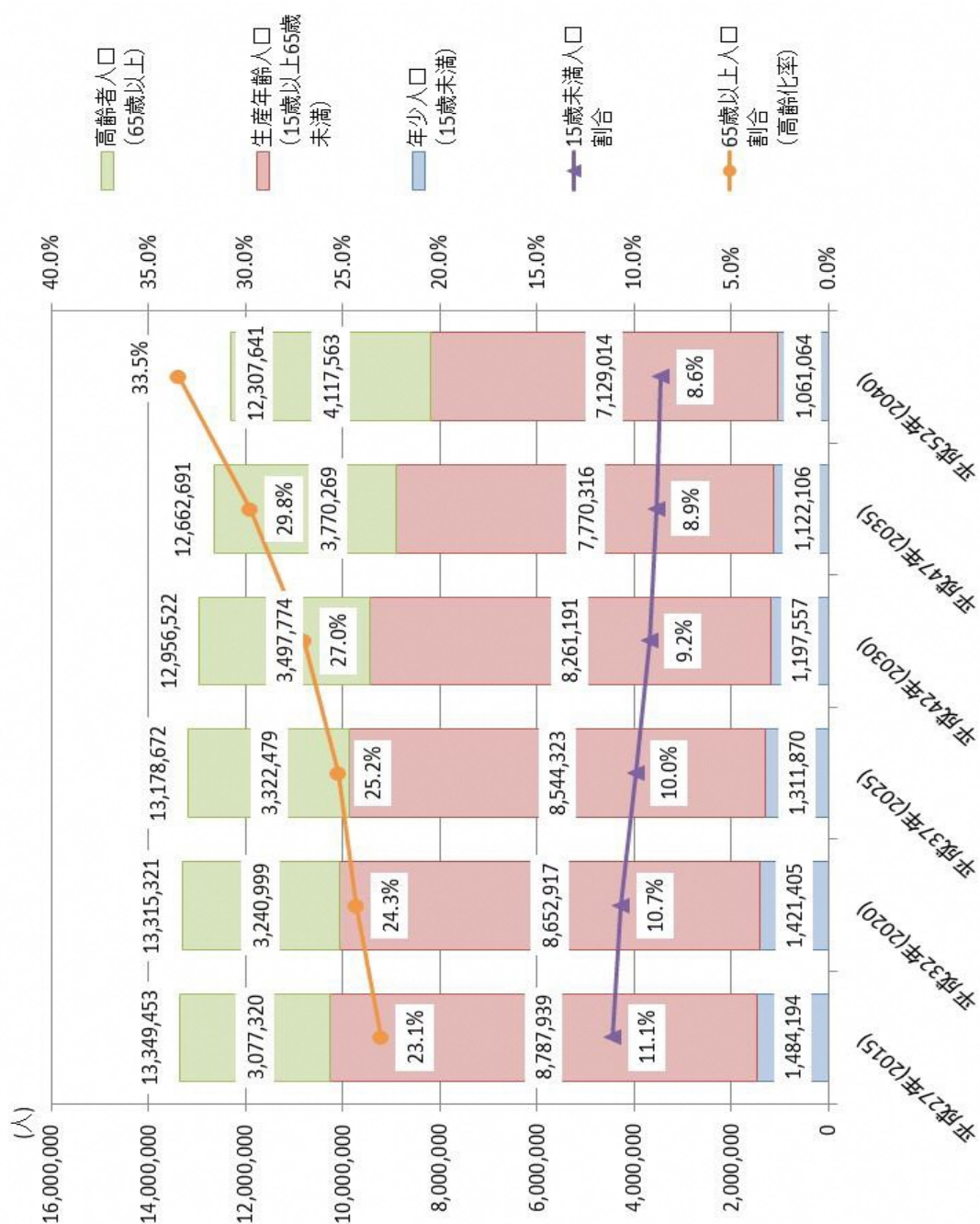
図表 10：練馬区の将来推計人口



出典：練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）

- ・ 国立社会保障・人口問題研究所の日本の地域別将来推計（平成 25 年 3 月）では、東京都、区西北部医療圏⁵とも、生産年齢人口、年少人口は減少するのに対し、高齢者人口は大きく増加すると推計されています。

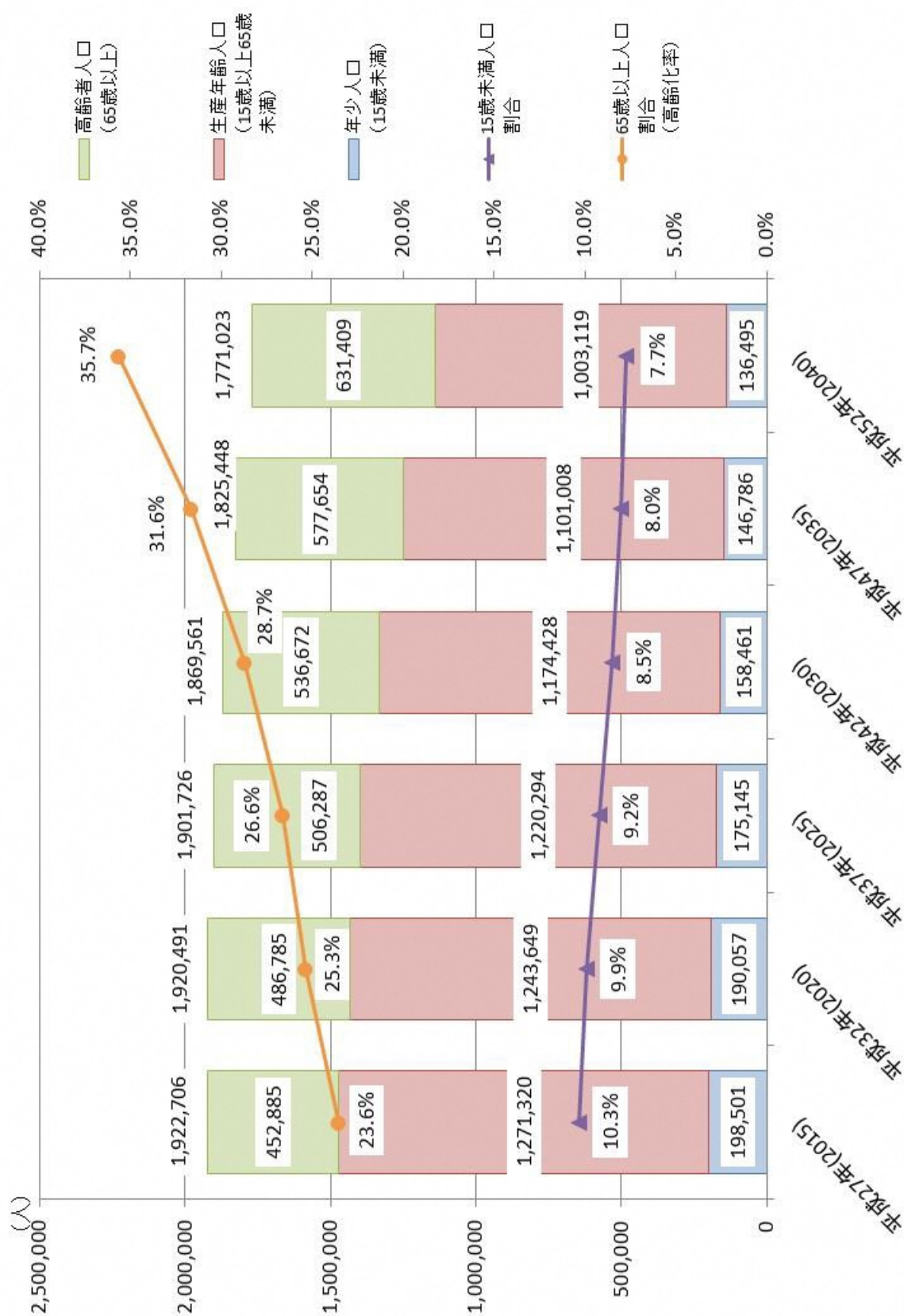
図表 11：東京都の将来推計人口



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成 25 年（2013 年）3 月）」

⁵ 区西北部医療圏…原則として特殊な医療を除く一般の医療ニーズに対応するために都が設定する保健医療圏域で、入院医療を確保するとともに、医療機関の機能連携に基づく医療サービスと広域的、専門的な保健サービスとの連携などにより、都民に包括的な保健医療サービスを提供する区域。練馬区は豊島区、北区、板橋区とともに区西北部医療圏に属している。

図表 12：区西北部医療圏の将来推計人口



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成25年（2013年）3月）」

10 患者数の推計

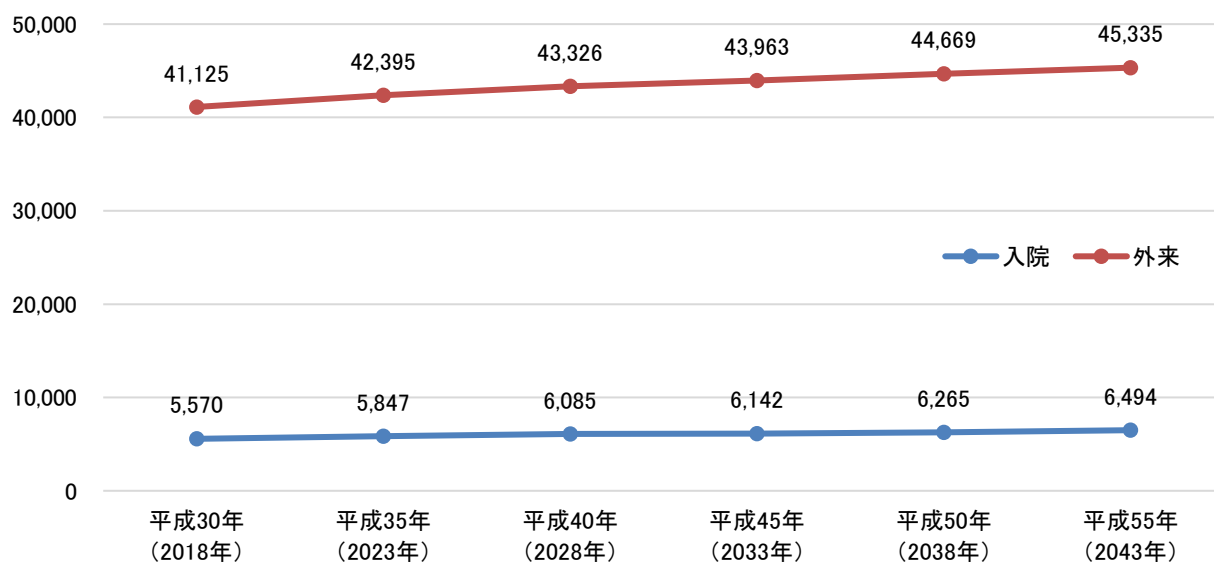
【患者数の推計方法】

- ・ 厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」より、東京都の平成 26 年（2014 年）入院・外来患者受療率（疾病分類別・男女別・年齢階層別）を抽出した。
- ・ 上記の入院・外来患者受療率に練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）に基づく男女別・年齢階層別の将来推計人口を乗じることで将来の入院・外来患者数を試算した。
- ・ 受療率は平成 26 年（2014 年）の数値を固定し、社会変動や医療政策による影響等は考慮していない。

(1) 練馬区の入院・外来患者数の推計

- ・ 入院・外来ともに、1 日あたりの患者総数は増加する見込みです。
- ・ 入院患者は、平成 30 年（2018 年）の約 5,600 人から平成 55 年（2043 年）には約 6,500 人まで増加する見込みです。
- ・ 外来患者は、平成 30 年（2018 年）の約 41,000 人から平成 55 年（2043 年）には約 45,000 人まで増加する見込みです。

（人/日） 図表 13：練馬区の入院・外来患者数の推計（患者住所地ベース⁶）



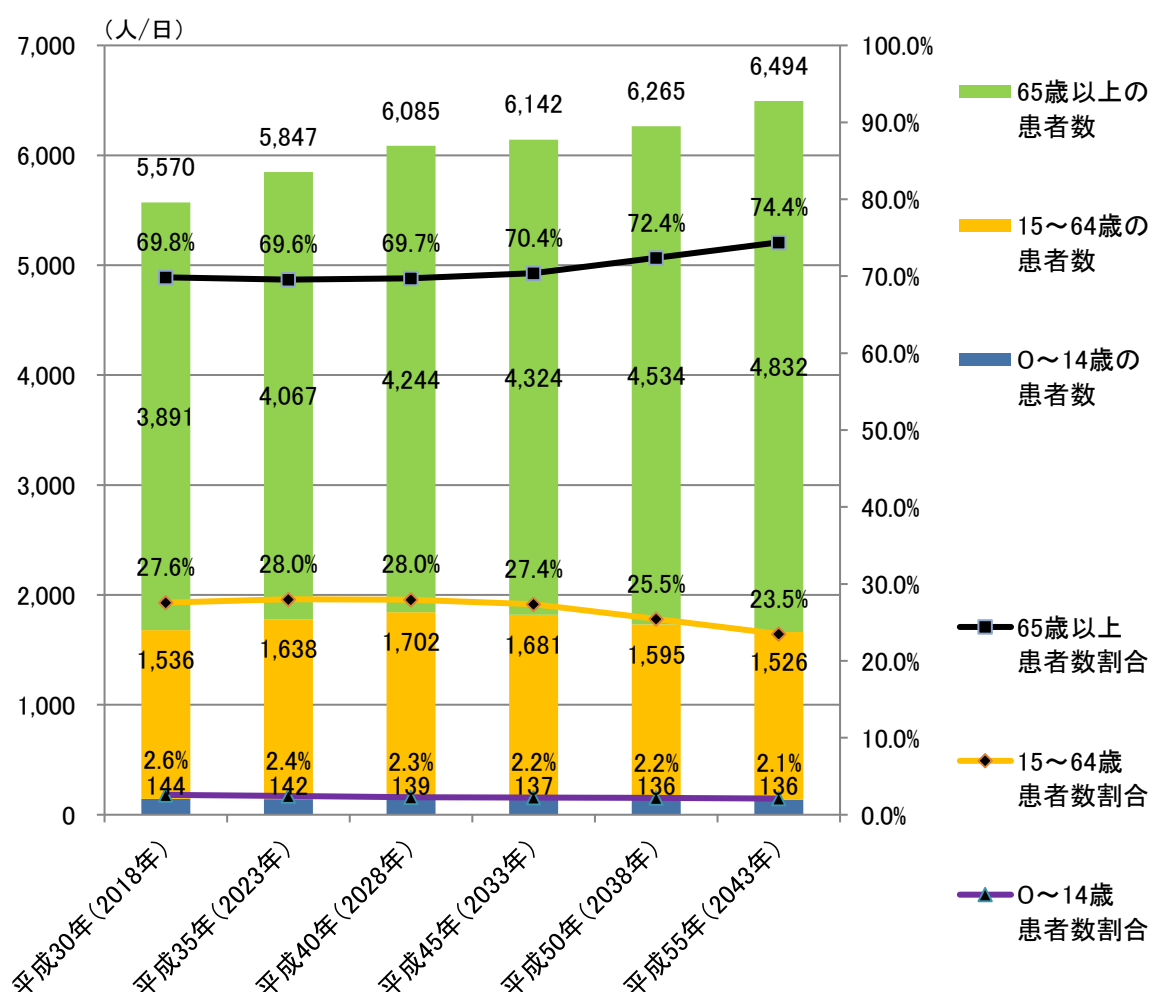
出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

⁶患者住所地ベース…練馬区に住所がある患者数。

(2) 年齢階層別入院患者数の推計

- ・ 年齢階層別の入院患者数は、65 歳以上の高齢者が最も多く、高齢化の進展により、平成 30 年（2018 年）と比較して平成 55 年（2043 年）には約 1,000 人増加し約 4,800 人と推計されます。
- ・ 15～64 歳の患者数は、平成 40 年（2028 年）まで微増するものの、その後は減少し、平成 55 年（2043 年）には平成 30 年（2018 年）とほぼ同じ約 1,500 人と推計されます。
- ・ 0～14 歳以下の患者数は微減し、平成 55 年（2043 年）には約 130 人と推計されます。

図表 14：年齢階層別入院患者数の推計（患者住所地ベース）

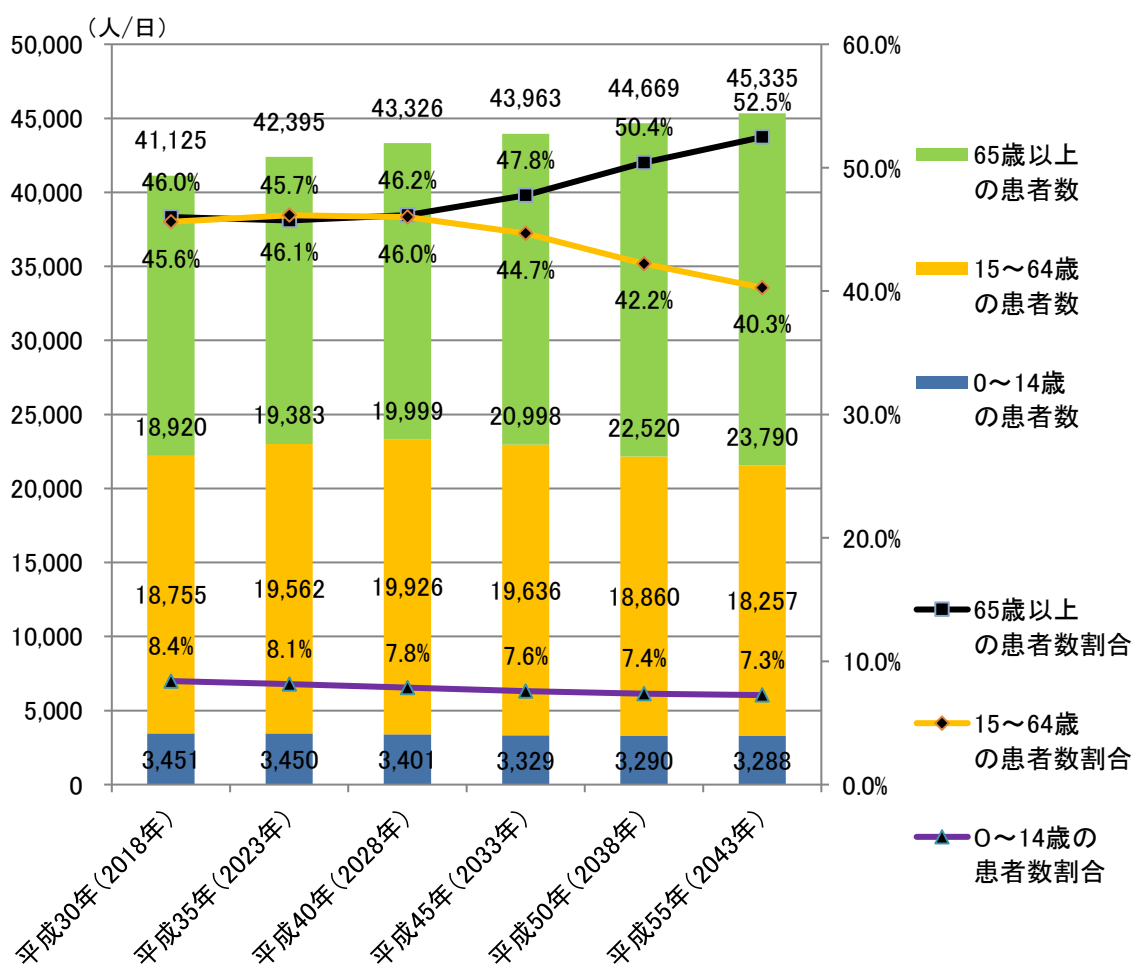


出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

(3) 年齢階層別外来患者数の推計

- ・ 年齢階層別の外来患者数は、65 歳以上の高齢者が最も多く、高齢化の進展により、平成 30 年（2018 年）と比較して平成 55 年（2043 年）には約 500 人増加し約 24,000 人と推計されます。
- ・ 15～64 歳の患者数は、平成 40 年まで微増するものの、その後は減少し、平成 55 年（2043 年）には平成 30 年（2018 年）より少なく約 18,000 人と推計されます。
- ・ 0～14 歳以下の患者数は微減し、平成 55 年（2043 年）には約 3,300 人と推計されます。

図表 15：年齢階層別外来患者数の推計（患者住所地ベース）



出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

11 区民が受診する医療機関の所在地の状況

区民が受診する医療機関の所在する地域について、平成 27 年 10 月の練馬区国民健康保険のレセプトデータにより調査しました。

今回の調査では、①区内、②区西北部医療圏（練馬区・豊島区・北区・板橋区、以下「医療圏」という。）、③医療圏＋隣接区市（東京都）⁷＋隣接市（埼玉県）⁸の 3 段階で分類しました。

【医療機関所在地域のイメージ図】



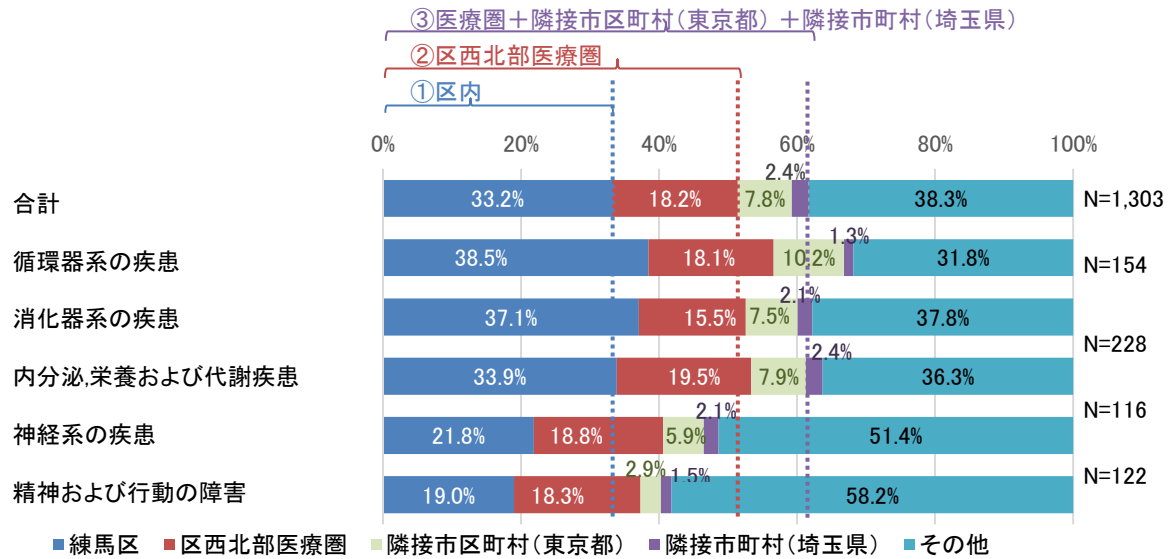
⁷ 隣接区市（東京都）…練馬区に隣接している東京都の区市（西東京市・武蔵野市・杉並区・中野区）

⁸ 隣接市（埼玉県）…練馬区に隣接している埼玉県の市（新座市・朝霞市・和光市）

(1) 入院患者の医療機関所在地の状況

- ・①区内の範囲でみると、入院患者のうち 33.2%が区内の医療機関で受診しており、66.8%が区外の医療機関で受診しています。
- ・②医療圏の範囲でみると、入院患者のうち 51.5%が、医療圏内の医療機関で受診しており、48.5%が医療圏以外の医療機関で受診しています。
- ・③医療圏＋隣接区市（東京都）＋隣接市（埼玉県）の範囲でみると、入院患者のうち 61.7%が③の範囲内で受診しており、38.3%が範囲外で受診しています。

図表 16：練馬区の入院患者の医療機関所在地の状況



出典：練馬区「国保レセプトデータ（平成 27 年（2015 年）10 月分）」

※上記国保レセプトデータは、国民健康保険の診療報酬明細を基にしたものであり、その他社会保険等は含まない。N＝100 以上のもののみ抜粋

ICD10 大分類	ICD10 中分類	主な疾患
循環器系の疾患	高血圧性疾患、心疾患（高血圧性のものを除く）（虚血性心疾患、その他の心疾患）、脳血管疾患（脳梗塞、その他の脳血管疾患）等	高血圧症、脳梗塞、狭心症、心不全、不整脈
消化器系の疾患	う蝕、歯肉炎及び歯周疾患、胃潰瘍及び十二指腸潰瘍 等	便秘症、大腸ポリープ、胃潰瘍、慢性胃炎、胃炎
内分泌・栄養および代謝疾患	甲状腺障害、糖尿病 等	糖尿病、高脂血症、脂質異常症、2 型糖尿病、脱水症
神経系の疾患	パーキンソン病、アルツハイマー病、てんかん 等	不眠症、てんかん、薬剤性パーキンソン症候群
精神および行動の障害	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害、気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）、神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害 等	統合失調症、うつ病、躁うつ病、認知症、双極性感情障害

※ICD10⁹中分類の疾患のうち、主な疾患名を抜粋

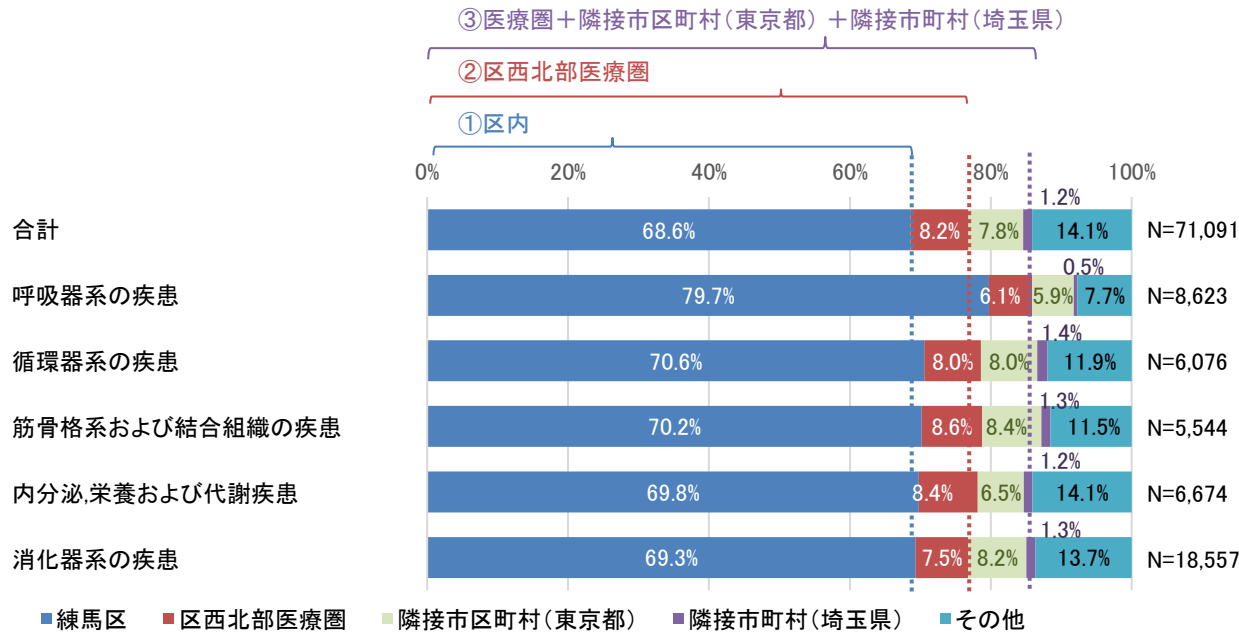
※疾患の並び順は、区内の受診患者数が多い順

⁹ ICD10…「疾病及び関連保健問題の国際統計分類：International Statistical Classification of Diseases and Related Health Problems（「ICDJ）」とは、異なる国や地域から、異なる時点で集計された死亡や疾病のデータの体系的な記録、分析、解釈及び比較を行うため、世界保健機関憲章に基づき、世界保健機関（WHO）が作成した分類。全 22 章からなる大分類と、大分類と包括関係にある、より細かい疾患名の中分類、小分類から構成される。

(2) 外来患者の医療機関所在地の状況

- ・ ①区内の範囲でみると、外来患者のうち 68.6%が区内の医療機関で受診しており、31.4%が区外の医療機関で受診しています。
- ・ ②医療圏の範囲でみると、外来患者のうち 76.8%が、医療圏内の医療機関で受診しており、23.3%が医療圏以外の医療機関で受診しています。
- ・ ③医療圏＋隣接区市（東京都）＋隣接市（埼玉県）の範囲で見ると、外来患者のうち 85.9%が③の範囲内で受診しており、14.1%が範囲外で受診しています。

図表 17：練馬区の外来患者区外受診状況



出典：練馬区「国保レセプトデータ（平成 27 年（2015 年）10 月分）」

※N=5,000 以上のものみ抜粋

ICD10 分類	ICD10 中分類	主な疾患
呼吸器系の疾患	急性上気道感染症、肺炎、急性気管支炎及び急性細気管支炎、気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患、喘息 等	アレルギー性鼻炎、気管支喘息、急性気管支炎、急性上気道炎、急性咽喉頭炎
循環器系の疾患	高血圧性疾患、心疾患（高血圧性のものを除く）（虚血性心疾患、その他の心疾患）、脳血管疾患（脳梗塞、その他の脳血管疾患） 等	高血圧症、狭心症、本態性高血圧症、脳梗塞、心不全
筋骨格系および結合組織の疾患	炎症性多発性関節障害、脊柱障害、骨の密度及び構造の障害 等	腰痛症、骨粗鬆症、変形性膝関節症、肩関節周囲炎、変形性腰椎症
内分泌・栄養および代謝疾患	甲状腺障害、糖尿病 等	高脂血症、糖尿病、高コレステロール血症、高尿酸血症、脂質異常症
消化器系の疾患	う蝕、歯肉炎及び歯周疾患、胃潰瘍及び十二指腸潰瘍 等	歯周炎、う蝕、慢性歯周炎、慢性胃炎、便秘症

※ICD10 中分類の疾患のうち、主な疾患名を抜粋

※疾患の並び順は、区内の受診患者数が多い順

12 主要死因別死亡数

図表 18 : 人口 10 万人対主要死因別死亡数（上位 11） (人)

	東京都		医療圏		練馬区	
1	悪性新生物	252.8	悪性新生物	259.7	悪性新生物	232.74
2	心疾患（高血圧性を除く）	126.7	心疾患（高血圧性を除く）	130.3	心疾患（高血圧性を除く）	112.49
3	その他の全死因	96.4	その他の全死因	93.7	その他の全死因	91.74
4	肺炎	72.8	肺炎	72.7	肺炎	66.14
5	脳血管疾患	70.3	脳血管疾患	72.0	脳血管疾患	63.23
6	老衰	46.3	老衰	46.8	老衰	40.82
7	不慮の事故	20.3	不慮の事故	22.9	不慮の事故	19.79
8	神経系の疾患	19.9	神経系の疾患	20.6	神経系の疾患	19.51
9	自殺	18.3	自殺	20.0	自殺	19.23
10	腎不全	13.9	肝疾患	13.5	大動脈瘤及び解離	13.01
11	肝疾患	13.2	大動脈瘤及び解離	13.3	肝疾患	10.79

出典：東京都「人口動態統計平成 26 年（2014 年）」より作成

13 病床機能別病床数

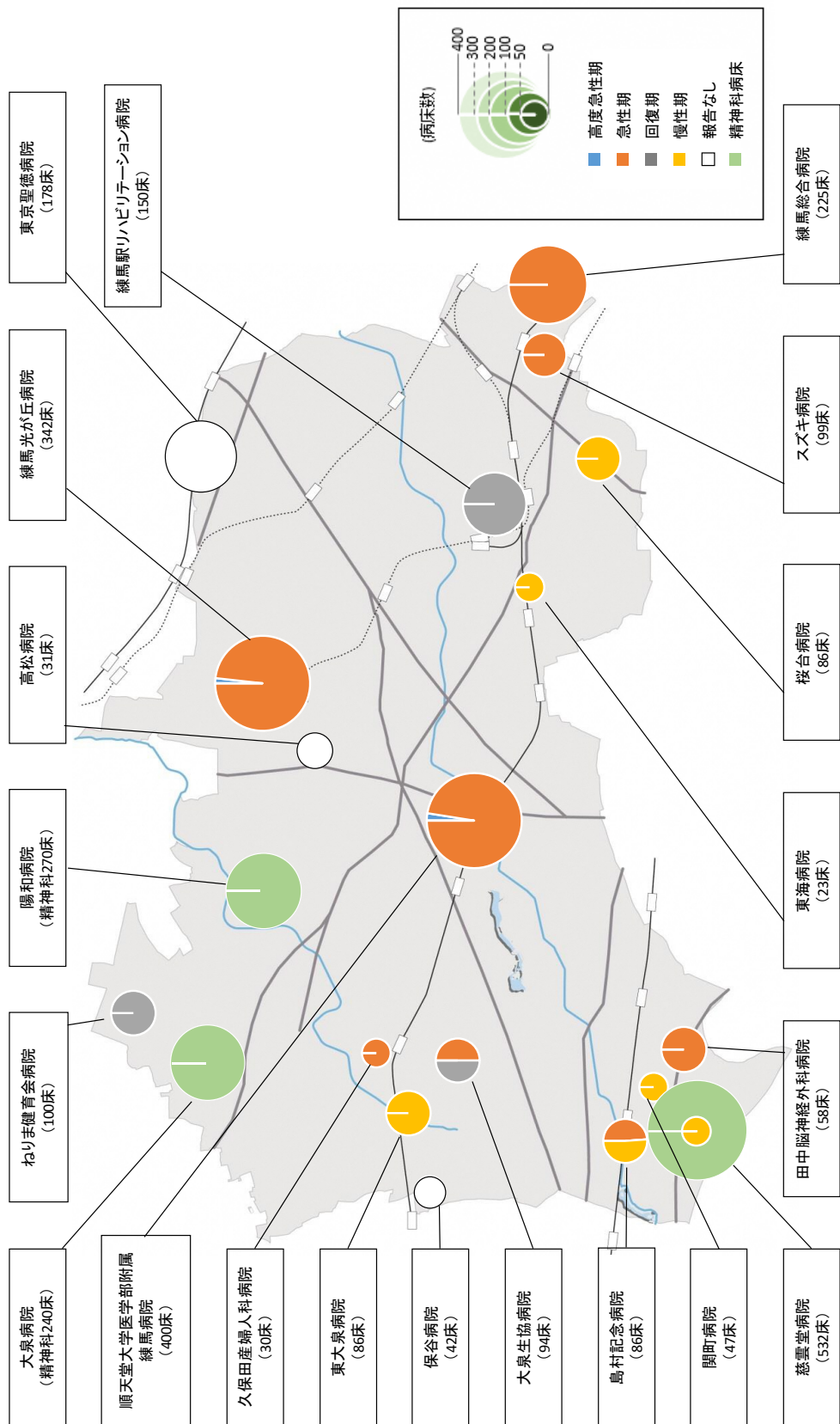
図表 19：練馬区の病床機能別病床数

		許可病床数				病床機能別病床数			
	医療機関名	一般 病床	療養 病床	うち 医療療養	計	高度 急性期	急性期	回復期	慢性期
1	スズキ病院	99	0	0	99	0	99	0	0
2	田中脳神経外科病院	58	0	0	58	0	58	0	0
3	慈雲堂病院	30	0	0	30	0	0	0	30
4	東京聖徳病院	0	178	0	178	—	—	—	—
5	練馬総合病院	224	0	0	224	0	224	0	0
6	練馬駅リハビリテーション病院	0	150	150	150	0	0	150	0
7	練馬光が丘病院	342	0	0	342	6	336	0	0
8	桜台病院	0	86	16	86	0	0	0	86
9	順天堂大学医学部附属練馬病院	400	0	0	400	10	390	0	0
10	島村記念病院	42	44	44	86	0	42	0	44
11	久保田産婦人科病院	30	0	0	30	0	30	0	0
12	東海病院	0	23	23	23	0	0	0	23
13	保谷病院	42	0	0	42	—	—	—	—
14	関町病院	0	47	47	47	0	0	0	47
15	大泉生協病院	94	0	0	94	0	47	47	0
16	東大泉病院	0	86	86	86	0	0	0	86
17	高松病院	31	0	0	31	—	—	—	—
合計		1,392	614	366	2,006	16	1,226	197	316
4 機能別割合						0.9%	69.9%	11.2%	18.0%

出典：東京都福祉保健局「東京都における医療機能ごとの病床の状況（平成 28 年（2016 年）報告」7 月 1 日時点

※「東京聖徳病院」「保谷病院」「高松病院」は、平成 28 年（2016 年）に報告を行っていないため、平成 28 年（2016 年）医療機関名簿の許可病床数を引用

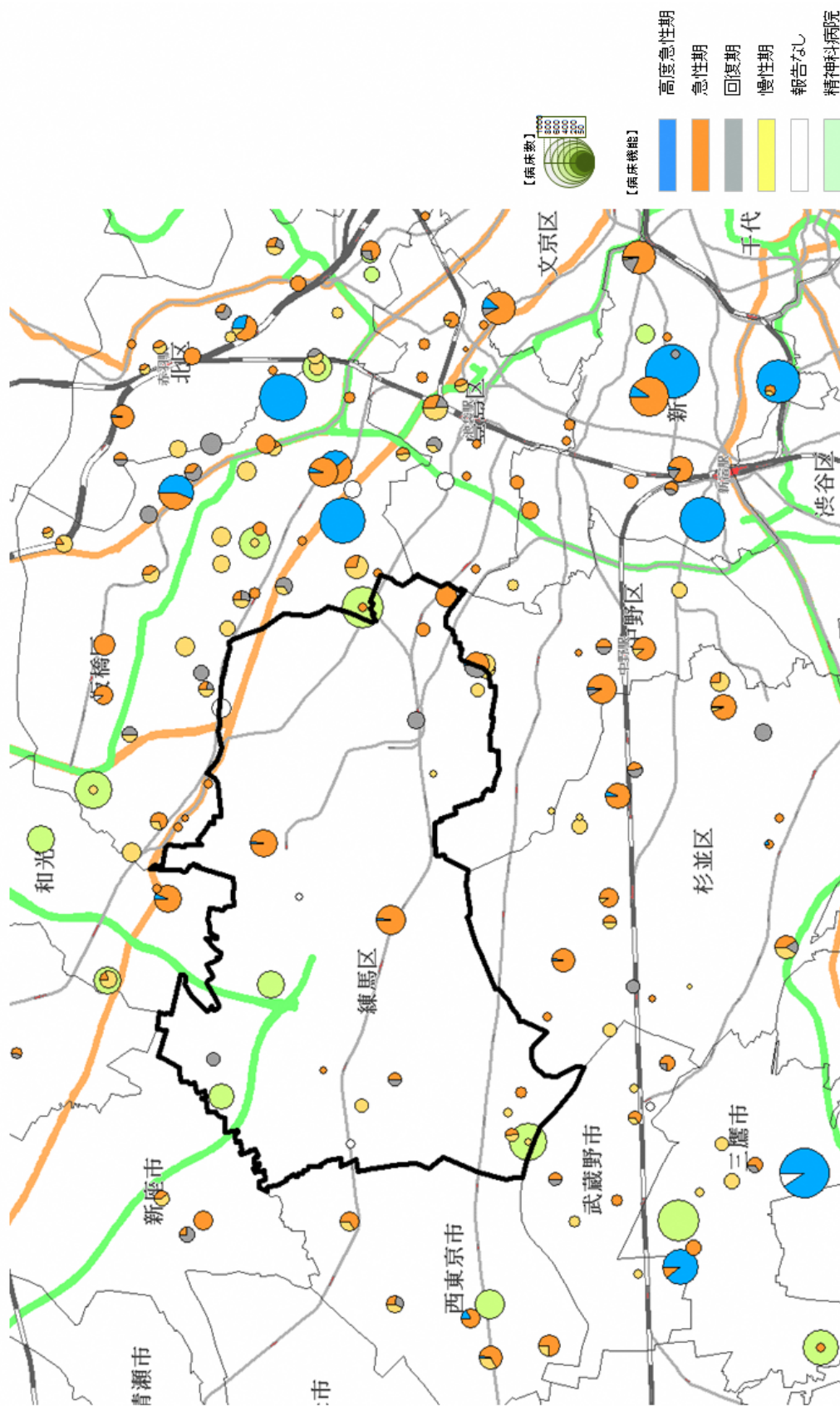
練馬区における病院配置図



出所：東京都福祉保健局「東京都における医療機能ごとの病床の状況（平成28年（2016年）報告）7月1日時点（精神病床は関東信越厚生局「届出受理医療機関名簿」平成29年6月1日現在）

※「東京聖徳病院」「桜台病院」「東海病院」は、平成28年に報告を行っていないため、平成28年医療機関名簿の許可病床数を引用

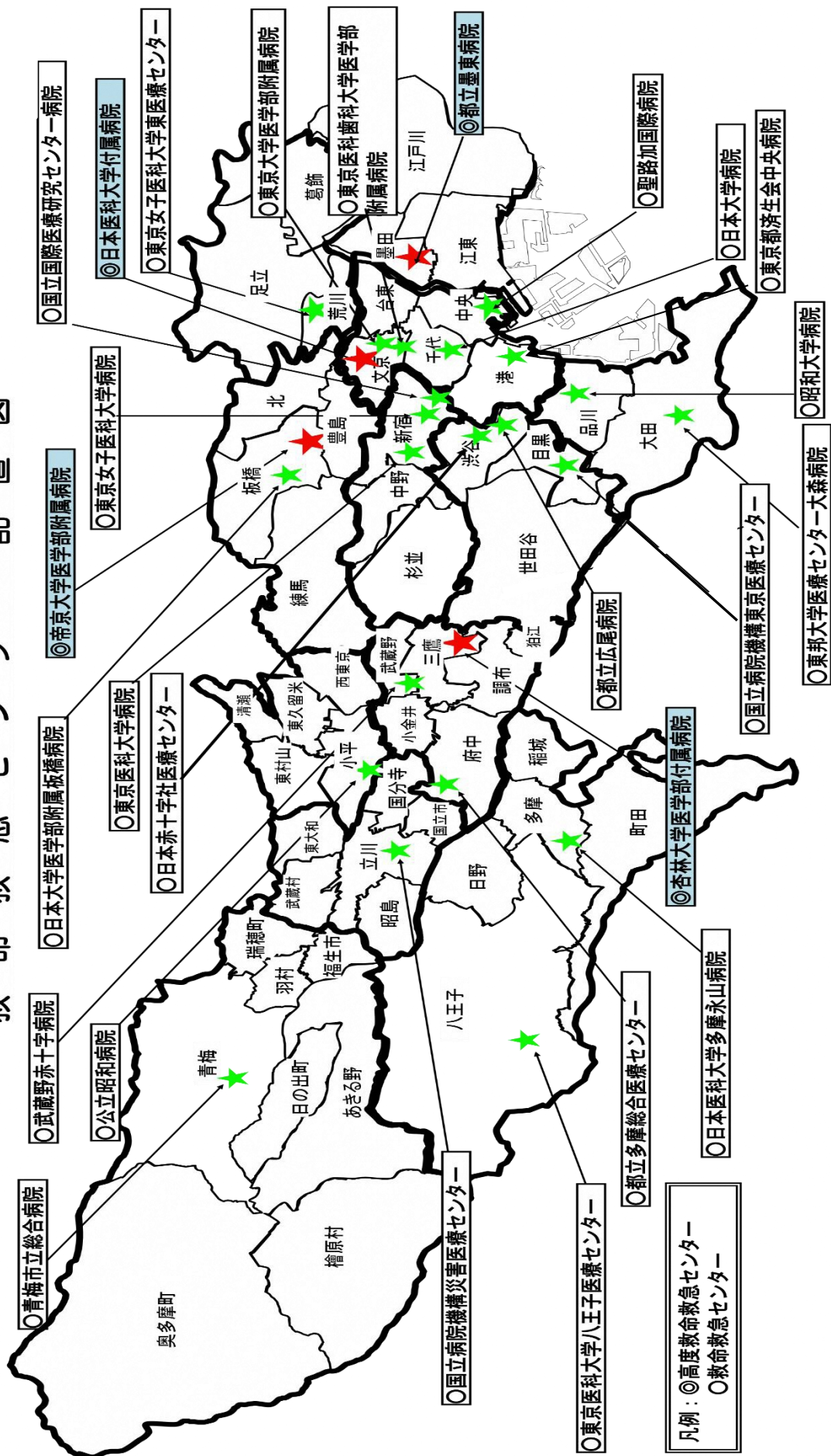
練馬区周辺地域における病院配置図



出所：東京都福祉保健局「東京都における医療機能ごとの病床の状況（平成28年（2016年）報告）7月1日時点（精神病床は
関東1信越厚生局「届出受理医療機関名簿」平成29年6月1日現在）
※平成28年に報告を行っていない医療機関は、平成28年医療機関名簿の許可病床数を引用

救命救急センター配置図

平成29年1月1日現在



圏域	構成区市町村	人口	面積 (k m ²)	救 命 救 急 セ ン タ ー
区中央部	千代田・中央・港・文京・台東	869,967	63.64	日本医科大学付属病院(47床)、日本大学病院(20床)、聖路加国際病院(20床)、東京医科歯科大学医学部付属病院(30床)、東京大学医学部付属病院(20床)、東京都済生会中央病院(22床)
区南部	品川・大田	1,110,619	83.50	東邦大学医療センター大森病院(20床)、昭和大学病院(20床)
区西南部	目黒・世田谷・渋谷	1,414,607	87.83	都立広尾病院(36床)、国立病院機構東京医療センター(18床)、日本赤十字社医療センター(33床)
区西部	新宿・中野・杉並	1,234,745	67.87	東京女子医科大学病院(30床)、東京医科大学病院(20床)、国立国際医療研究センター病院(30床)
区西北部	豊島・北・板橋・練馬	1,925,462	113.92	帝京大学医学部付属病院(30床)、日本大学医学部付属板橋病院(24床)
区東北部	荒川・足立・葛飾	1,329,770	98.21	東京女子医科大学東医療センター(20床)
区東部	墨田・江東・江戸川	1,442,517	103.83	都立墨東病院(24床)
西多摩	青梅・福生・羽村・あきる野・瑞穂・日の出・檜原・奥多摩	390,419	572.70	青梅市立総合病院(30床)
南多摩	八王子・町田・日野・多摩・稲城	1,431,153	324.71	日本医科大学多摩永山病院(21床)、東京医科大学八王子医療センター(30床)
北多摩西部	立川・昭島・国分寺・国立・東大和・武蔵村山	641,992	90.05	国立病院機構災害医療センター(34床)
北多摩南部	武蔵野・三鷹・府中・調布・小金井・狛江	1,026,470	96.10	杏林大学医学部付属病院(30床)、武蔵野赤十字病院(30床)、都立多摩総合医療センター(20床)
北多摩北部	小平・東村山・西東京・清瀬・東久留米	732,134	76.51	公立昭和病院(28床)
合計（島しょ部除く）		13,549,855	1,778.87	センター総数 26施設(687床)

出典：面積：東京都総務局（平成28年（2016年）4月1日現在）

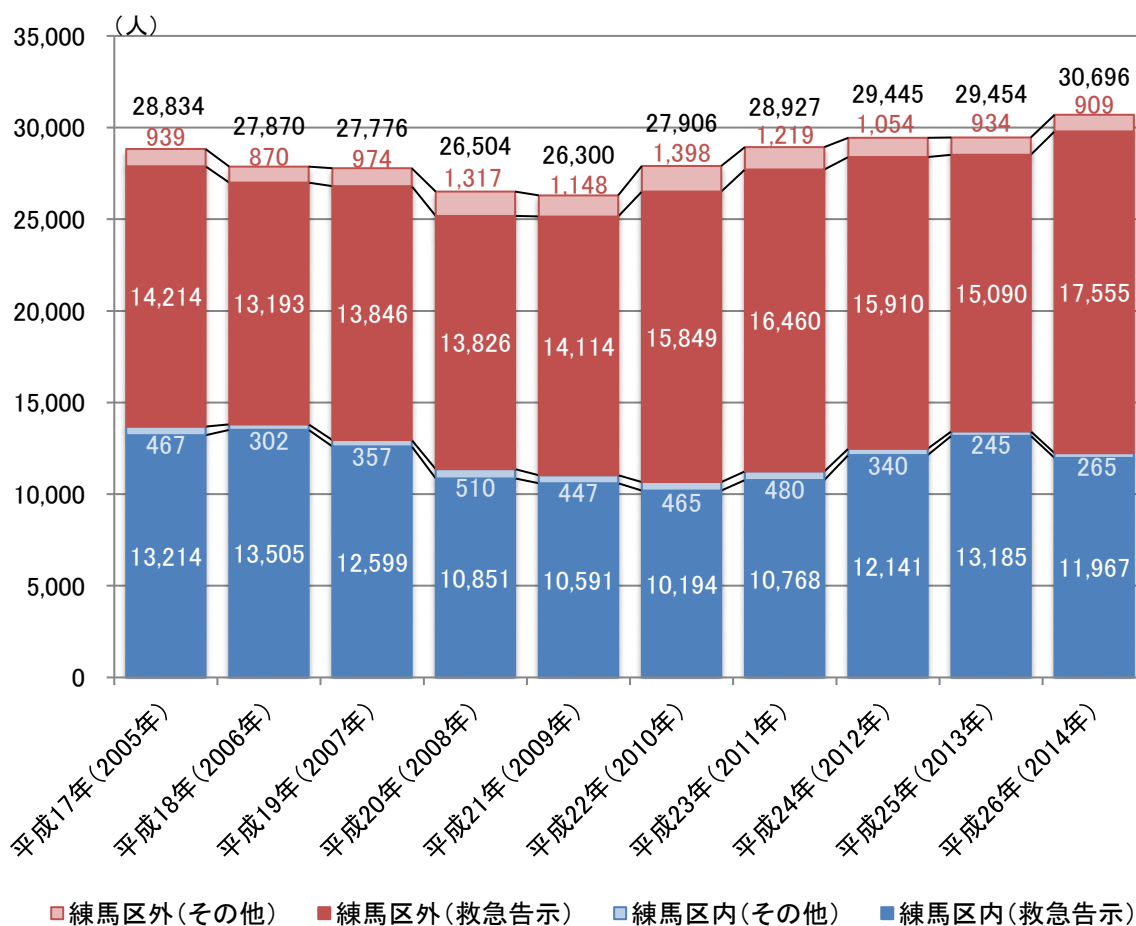
人口：東京都総務局「東京都の人口（推計）」（平成28年（2016年）4月1日現在）

14 救急医療

(1) 搬送医療機関別搬送件数

- ・ 区の救急搬送件数は平成 21 年（2009 年）から増加に転じ、それ以降毎年増加しています。
- ・ 約 6 割が区外の医療機関へ搬送されています。
- ・ 区内の救急告示医療機関¹⁰搬送件数は、平成 22 年（2010 年）から平成 25 年（2013 年）まで増加傾向にありましたが、平成 26 年（2014 年）には減少しました。
- ・ 区外の救急告示医療機関搬送件数は、平成 23 年（2011 年）から平成 25 年（2013 年）まで減少傾向にありましたが、平成 26 年（2014 年）には増加しました。

図表 20：練馬区の搬送医療機関別搬送件数の推移



出典：東京消防庁

¹⁰ 救急告示医療機関…救急病院等を定める省令（救急患者を受け入れる要件）に基づき、知事が認定した医療機関

図表 21：練馬区内の救急医療機関

	医療機関	救急告示 医療機関	東京都指定 二次救急医療機関 ¹¹	病床数
1	スズキ病院	○	○	99
2	練馬総合病院	○	○	224
3	練馬光が丘病院	○	○	342
4	順天堂大学医学部附属練馬病院	○	○	400
5	田中脳神経外科病院	○	○	58
6	久保田産婦人科病院	○	—	30
7	川満外科	○	○	19
8	大泉生協病院	○	○	94
9	島村記念病院	○	—	86

出典：東京都福祉保健局ホームページ（平成 28 年（2016 年）10 月 1 日現在）

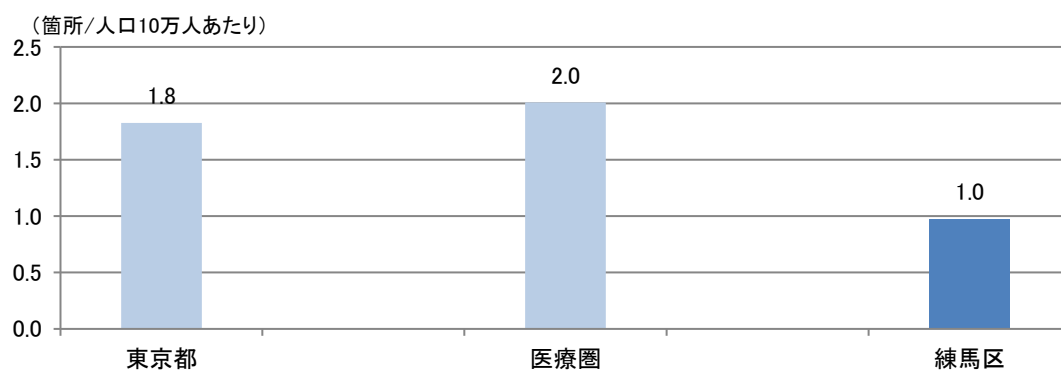
※島村記念病院は、平成 29 年 3 月 15 日から救急告示を撤回。

¹¹ 二次救急医療機関…原則として、2 科（内科系及び外科系）、3 科（内科系、小児科又は産科及び外科系）、又は 4 科（内科系、産科、小児科及び外科系）の初療及び入院・手術等の専門的な診療を行い、患者の受入れ可能な救急用病床を知事の指定に基づき確保している医療機関

(2) 二次救急医療機関数

- ・ 東京都指定二次救急医療機関の人口 10 万人あたりの施設数では、東京都・医療圏と比べて、区は約半分の状況です。

図表 22：人口 10 万人あたりの二次救急医療機関数

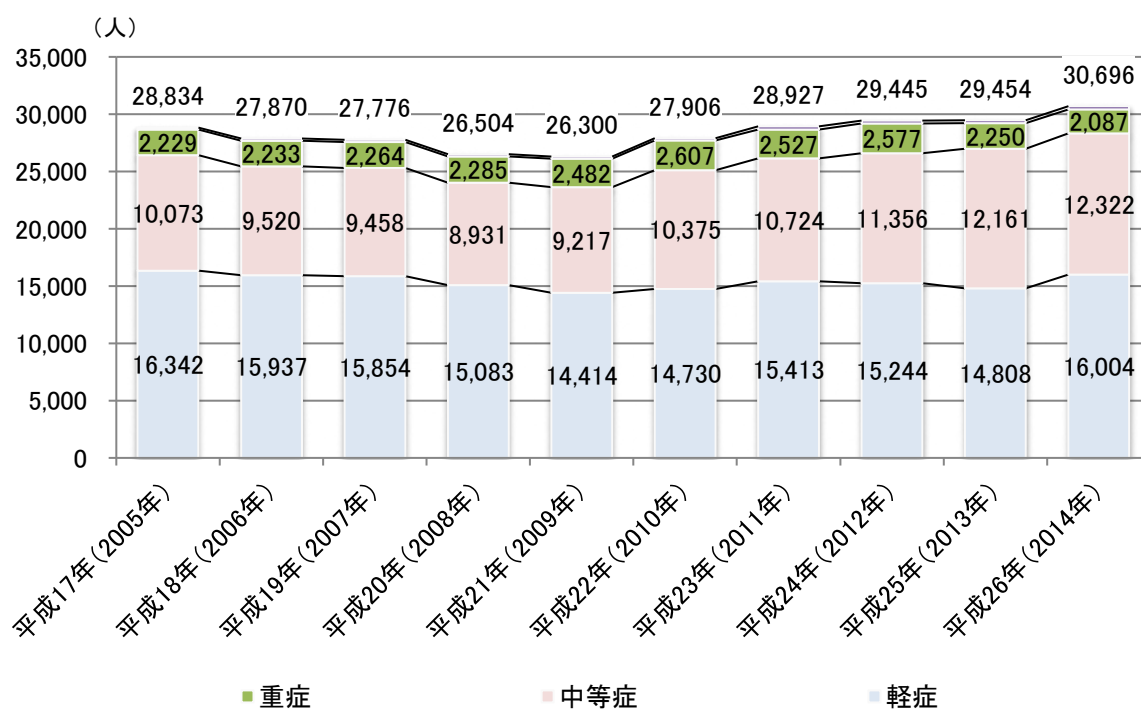


出典：東京都「休日・全夜間診療事業実施医療機関一覧（東京都指定二次救急医療機関一覧）（平成 28 年（2016 年）10 月 1 日現在）」、住民基本台帳人口平成 28 年（2016 年）1 月 1 日現在

(3) 重症度別搬送件数

- ・ 救急搬送患者のうち、重症¹²の患者数は、平成 22 年（2010 年）まで増加しその後は減少傾向です。
 - ・ 中等症¹³の患者は、平成 20 年（2008 年）まで減少していましたが、平成 21 年（2009 年）から増加に転じています。
 - ・ 軽症¹⁴の患者は、平成 21 年（2009 年）まで減少し、それ以降は、増減を繰り返しながら 15,000 人前後で推移していましたが、平成 26 年（2014 年）に転じました。
- ※重症・中等症・軽症は、搬送先の医師の診察による判断

図表 23：練馬区の重症度別搬送件数の推移



出典：東京消防庁

¹² 重症…傷病の程度が3週間以上の入院を必要とするもの

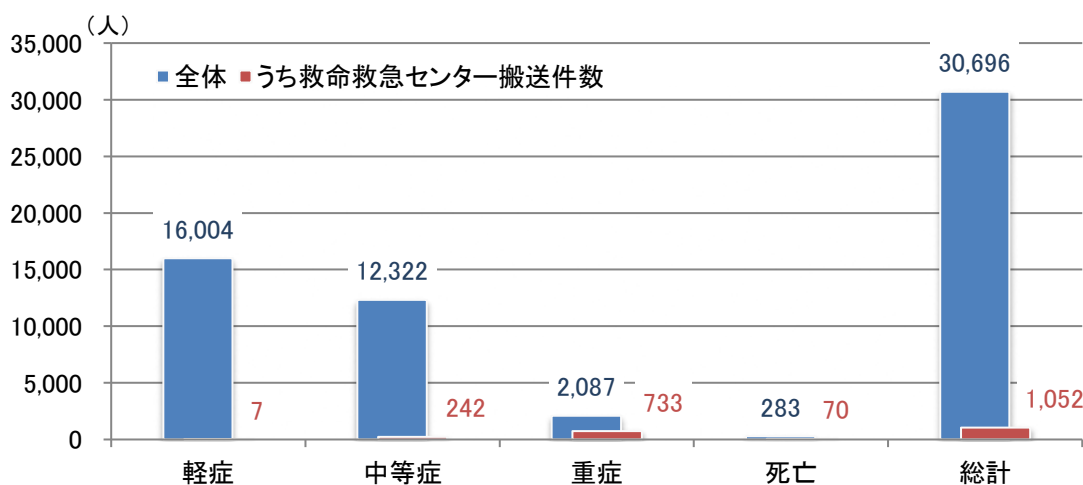
¹³ 中等症…傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの

¹⁴ 軽症…傷病の程度が入院加療を必要としないもの

(4) 救命救急センターとその他医療機関別の重症度別搬送件数

- ・ 練馬区内には救命救急センター¹⁵がないため、救命救急センターで治療が必要となった場合は、近隣の救命救急センターに搬送され治療を受けます。
 - ・ 平成 26 年（2014 年）には 1,052 人が、区外の救命救急センターに搬送されています。約 8 割は、重症の患者です。
- ※重症・中等症・軽症は、搬送先の医師の診察による判断

図表 24：練馬区の重症度別搬送件数（平成 26 年（2014 年））



出典：東京消防庁

図表 25：区外の救命救急センター搬送状況

搬送先	搬送人員数	割合
板橋区	661	62.8%
三鷹市・武蔵野市	258	24.5%
その他都内	133	12.6%
合計	1052	100%

小数点以下の端数処理調整し、割合の合計は 100%にしている。

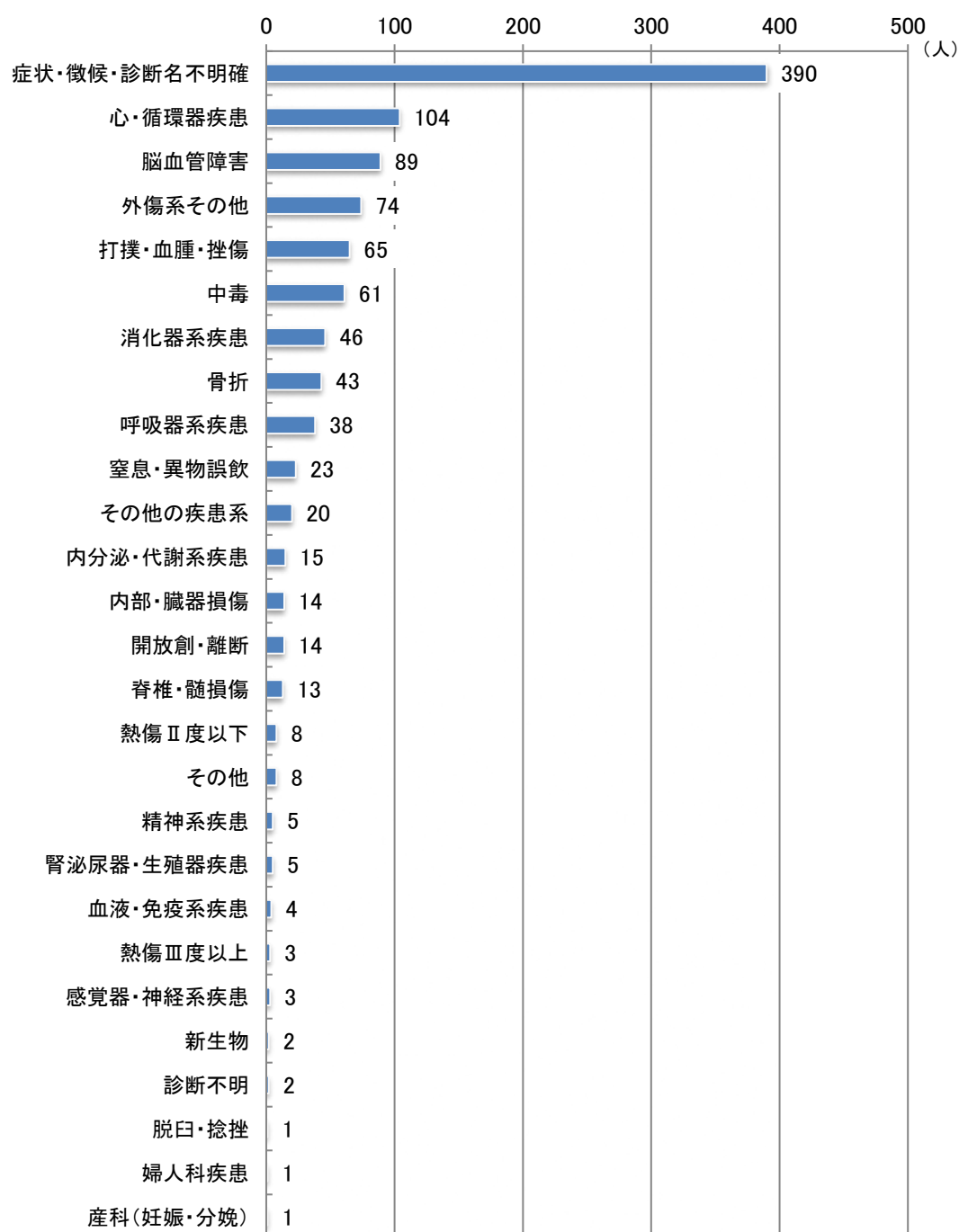
出典：東京消防庁

¹⁵ 救命救急センター…厚生労働大臣の定めを受けて、脳卒中や急性心筋梗塞、多発外傷、全身熱傷等、二次救急病院では対応困難な重篤な患者、複数の専門領域にわたる病状を有する患者に対し、専門的な救急医療を提供する医療機関（三次救急を提供する医療機関）。

(5) 救命救急センターの疾患別搬送件数

- ・ 区内の患者の救命救急センターへの搬送件数 1,052 件を疾患別に見ると、「診断名不明確」が最も多く、次いで「心・循環器疾患」、「脳血管障害」の順となっています。

図表 26：練馬区の救命救急センター搬送件数（疾患別：平成 26 年（2014 年））



※救急隊は医師の確定診断を待つことなく移動することが多いため、多くは初診時の医師の診断名。

出典：東京消防庁

(6) 救急医療体制について

図表 27：練馬区・二次保健医療圏の救急医療体制

	対象	練馬区	二次保健医療圏 (豊島・北・板橋区)
三次 救急	生命危機を伴う 重症患者	—	【救命救急センター】 ・ 帝京大学医学部附属病院 ・ 日本大学医学部附属板橋 病院
二次 救急	入院を要する 中等症患者	【東京都指定二次救急医療機関】 ・ 浩生会スズキ病院 ・ 練馬総合病院 ・ 練馬光が丘病院 ・ 順天堂大学医学部附属練馬病院 ・ 田中脳神経外科病院 ・ 川満外科 ・ 大泉生協病院	複数の医療機関
一次 救急	入院を要しない 軽症患者	(1) 練馬休日急患診療所 日・祝休日 10:00～17:00 18:00～22:00 土 8:00～22:00 (2) 練馬区夜間救急こどもクリニック (小児科のみ) 土・日・祝休日 18:00～22:00 平日 20:00～23:00 (3) 石神井休日急患診療所 日・祝休日 10:00～17:00 18:00～22:00 土 18:00～22:00 (4) 休日診療当番医療機関 日・祝休日 9:00～19:00 5 か所 (練馬総合・スズキ・大泉生 協・久保田産婦人科・田中脳神経外 科病院・川満外科 6 か所の内 5 か所 で輪番) 《歯科》 (1) 練馬つつじ歯科休日急患診療所 日・祝休日 10:00～17:00 (2) 休日診療当番医療機関 ゴールデンウィーク・年末年始 28 年度から 2 か所で実施 9:00～17:00	複数の医療機関

出典：救命救急センター：東京都福祉保健局ホームページ「救命救急センター（平成 29 年（2017 年）4 月 1 日現在）」

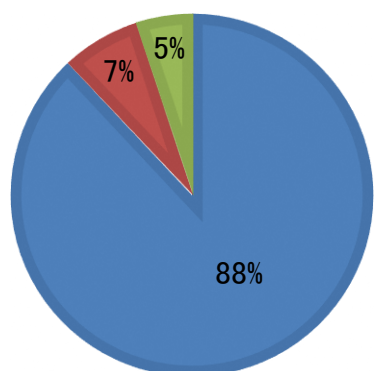
東京都指定二次救急医療機関：東京都福祉保健局ホームページ「休日・全夜間診療事業実施医療機関一覧（東京都指定二次救急医療機関一覧）（平成 28 年（2016 年）10 月 1 日現在）」

15 ICT ネットワーク

- ・ I C T¹⁶ネットワークについては、東京都内の 47 地区医師会（88%）がすでに導入している。

図表 28：ICT ネットワークの導入状況（平成 29 年 6 月 15 日現在）

■ 導入済み ■ 検討中 ■ 導入しない



【他自治体（東京都の導入状況）】

導入済み…47 地区医師会（88%）

検討中…6 地区医師会（7%）

導入予定なし…4 地区医師会（5%）

（練馬区医師会は独自事業として導入済み）

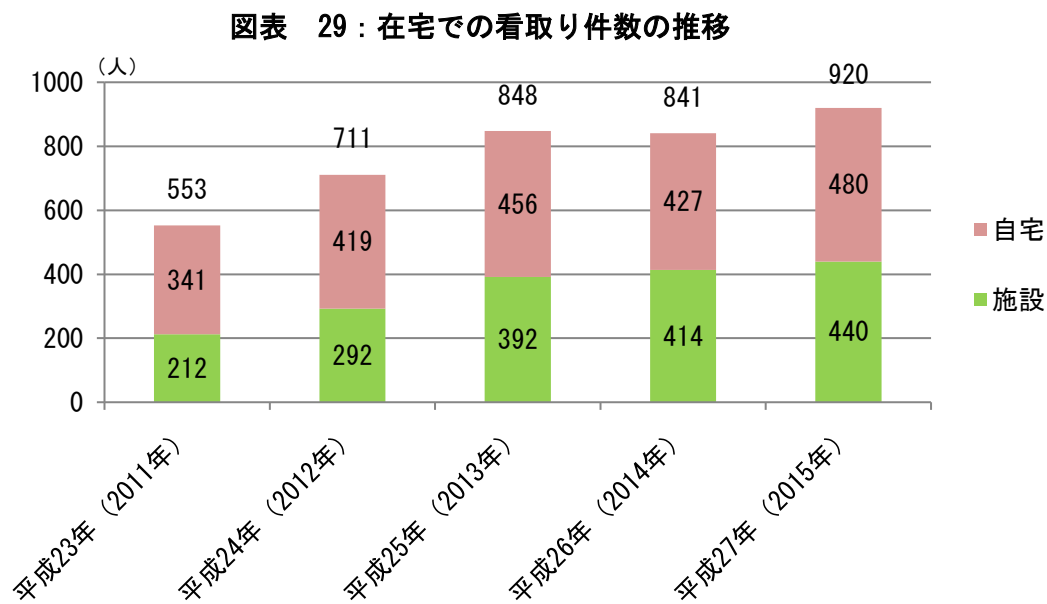
出典：平成 29 年度第 1 回地区医師会・区市町村在宅療養担当者連絡会東京都医師会資料

¹⁶ ICT…情報・通信に関する技術の総称。Information and Communication Technology（インフォメーション・アンド・コミュニケーション・テクノロジー）の略。医療や介護の分野では電子カルテ等の情報の共有やコミュニケーションのためのデータのやり取りに ICT を活用している。

16 在宅医療

(1) 看取り件数の推移

・ 在宅での看取り件数は増加傾向にあり、自宅・施設ともに増加しています。

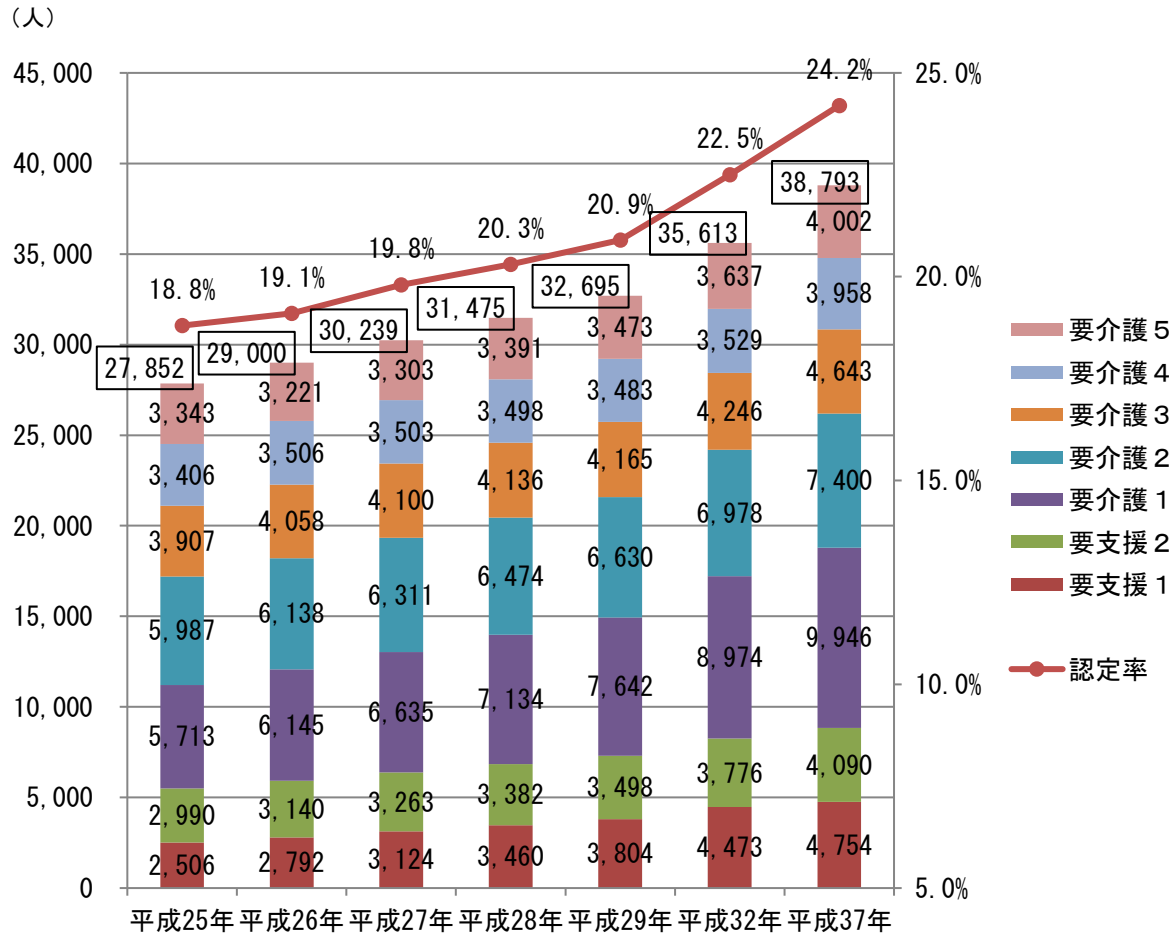


出典：練馬区「死亡小票データ（平成 23 年（2011 年）1 月 1 日～平成 27 年（2015 年）12 月 31 年の 5 カ年分）」

(2) 要支援・要介護認定者数の将来推計

- ・ 区の要支援・要介護認定者数は、増加の一途をたどり、平成 37 年（2025 年）には約 39,000 人になると推計されます。

図表 30：要介護認定者数の推移（第 1 号被保険者）



出典：練馬区「第 6 期練馬区高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画」

(3) 介護関係施設数の状況

- ・ 介護施設・介護サービス提供事業所の高齢者人口 10 万人あたりの数を比べると、東京都・医療圏よりも区の方が少ない施設は、介護療養型医療施設、訪問看護、通所介護（デイサービス）、療養通所介護、通所リハビリテーション（デイケア）、認知症対応型通所介護、介護老人福祉施設（地域密着型）であるが、極端に施設数が少ないサービスはなく、東京都と比べて比較的介護関係施設は充足しています。

図表 31：高齢者人口 10 万人あたり介護関係施設数

(単位：箇所)

サービスの種類	サービスの内容	東京都	練馬区
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	常に介護が必要で、自宅では介護ができない方が対象の施設です。食事・入浴など日常生活の介護や健康管理が受けられます。	16.2	17.4
介護老人保健施設	病状が安定し、リハビリに重点をおいた介護が必要な方が対象の施設です。医学的な管理のもとで介護や看護、リハビリが受けられます。	6.4	8.4
介護療養型医療施設	急性期の治療が終わり、病状は安定しているものの、長期間にわたり療養が必要な方が対象の施設です。介護体制の整った医療施設(病院)で、医療や看護が受けられます。	1.8	1.3
居宅介護支援	ケアマネジャーにケアプランを作成してもらうほか、安心して介護サービスを利用できるよう支援してもらいます。	112.8	133.5
訪問介護	ホームヘルパーに自宅を訪問してもらい、身体介護や生活援助を受けます。	98.8	117.4
訪問入浴介護	自宅に浴槽を持ち込んでもらい、入浴の介助を受けます。	5.4	6.4
訪問看護	看護師に訪問してもらい、床ずれの手当てや点滴の管理をしてもらいます。	31.9	31.6
訪問リハビリテーション	リハビリの専門家に訪問してもらい、自宅でリハビリを受けます。	7.1	7.1
通所介護 (デイサービス)	定員 19 名以上のデイサービスセンターで食事・入浴などの介護や機能訓練が日帰りで受けられます。	55.4	51.6
療養通所介護	常に看護師による観察を必要とする方を対象にしたサービスで、デイサービスセンターで、食事・入浴などの介護や機能訓練が日帰りで受けられます。	0.1	0.0
通所リハビリテーション (デイケア)	介護老人保健施設や病院・診療所で日帰りの機能訓練が受けられます。	10.7	10.3
短期入所生活介護 (ショートステイ)	介護老人福祉施設などに短期間入所して、食事・入浴などの介護や機能訓練が受けられます。	18.3	20.6
特定施設入居者生活 介護	有料老人ホームなどに入所している方が受けるサービスです。看護、医学的な管理の必要となる介護や機能訓練などが受けられます。	21.4	34.8
定期巡回・随時対応型 訪問介護看護	介護職員と看護師等の密接な連携による定期的な訪問を受けられます。また、通報や電話などをすることで、随時対応も受けられます。	2.8	3.9

サービスの種類	サービスの内容	東京都	練馬区
夜間対応型訪問介護	夜間に定期的な巡回で介護を受けられる訪問介護、緊急時など、利用者の求めに応じて介護を受けられる随時対応の訪問介護などがあります。	1.2	1.3
地域密着型通所介護	定員 19 名未満の小規模なデイサービスセンターで、食事・入浴などの介護や機能訓練が日帰りで受けられます。	55.2	78.0
認知症対応型通所介護	認知症と診断された方が食事・入浴などの介護や支援、機能訓練を日帰りで受けられます。	14.0	11.0
小規模多機能型居宅介護	小規模な住居型の施設への「通い」や、自宅に来てもらう「訪問」、施設に「泊る」サービスが受けられます。	6.2	9.7
認知症対応型共同生活介護	認知症と診断された方が少人数で共同生活をしながら、食事・入浴などの介護や支援、機能訓練を受けられます。利用者は共同生活のなかで、できる限り今まで暮らしてきた生活続けることを目指します。	19.2	20.6
介護老人福祉施設(地域密着型)	定員 30 人未満の介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)です。	0.9	0.0
看護小規模多機能型居宅介護	利用者の状況に応じて、小規模な住居型の施設への「通い」、自宅に来てもらう「訪問」、施設に「泊る」サービスに加え、看護職員に自宅に来てもらう「訪問看護」を組み合わせたサービスが受けられます。	0.6	0.6

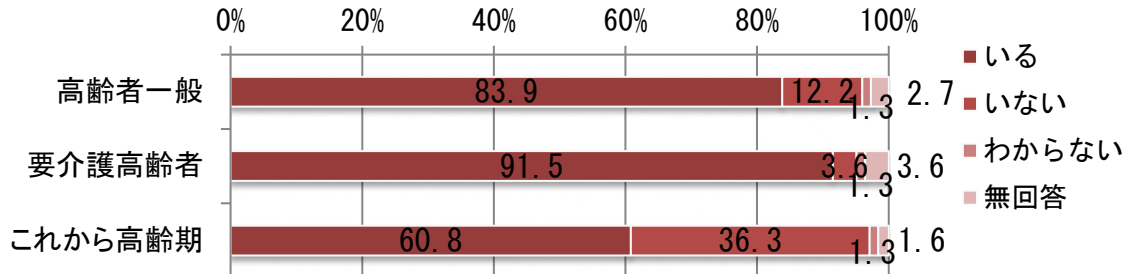
出典：厚生労働省「介護サービス情報公表システム（平成 28 年（2016 年）6 月時点）」、練馬区データ（平成 28 年（2016 年）9 月）、住民基本台帳人口平成 28 年（2016 年）1 月 1 日現在

(4) 高齢者の在宅医療等に関する調査結果

図表 32：かかりつけ医等の状況

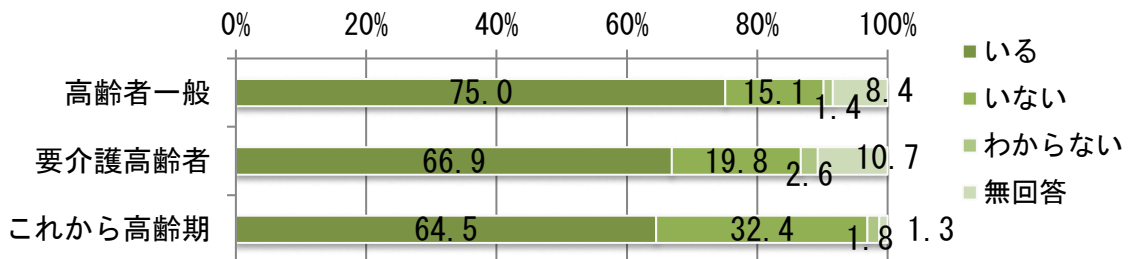
・ かかりつけ医の有無

「いる」は高齢者一般で 83.9%、これから高齢期では 60.8%であった。



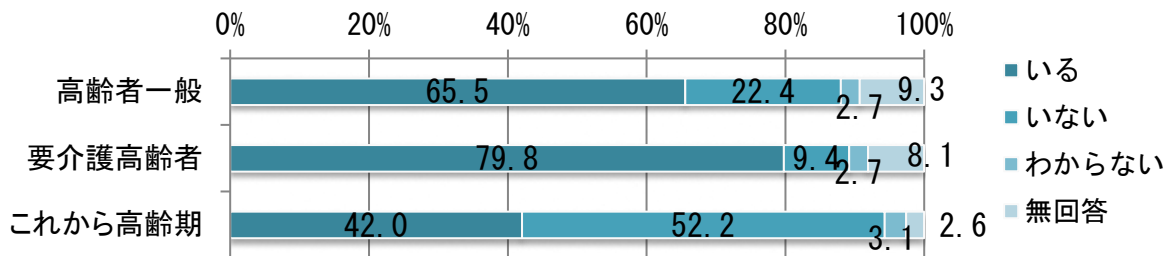
・ かかりつけ歯科医師の有無

「いる」は高齢者一般で 75.0%、要介護高齢者が 66.9%であった。



・ かかりつけ薬局の有無

「いる」は高齢者一般で 65.5%、要介護高齢者が 79.8%であった。



※高齢者一般…介護保険の認定を受けていない 65 歳以上の方

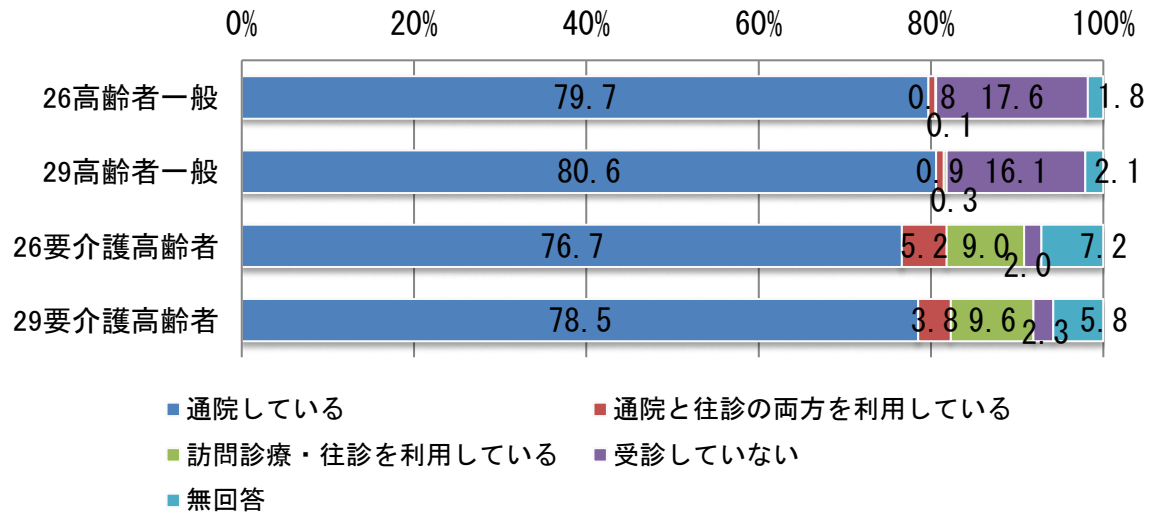
要介護高齢者…介護保険の認定を受けている 65 歳以上の方

これから高齢期…介護保険の認定を受けていない 55～64 歳の方

出典：練馬区「高齢者基礎調査報告書（速報）（平成 29 年（2017 年）3 月）」

図表 33：医療の受診形態

前回調査（平成 26 年（2014 年））に比べ、要介護高齢者の訪問診療・往診を利用しているが 0.6 ポイント増えている。

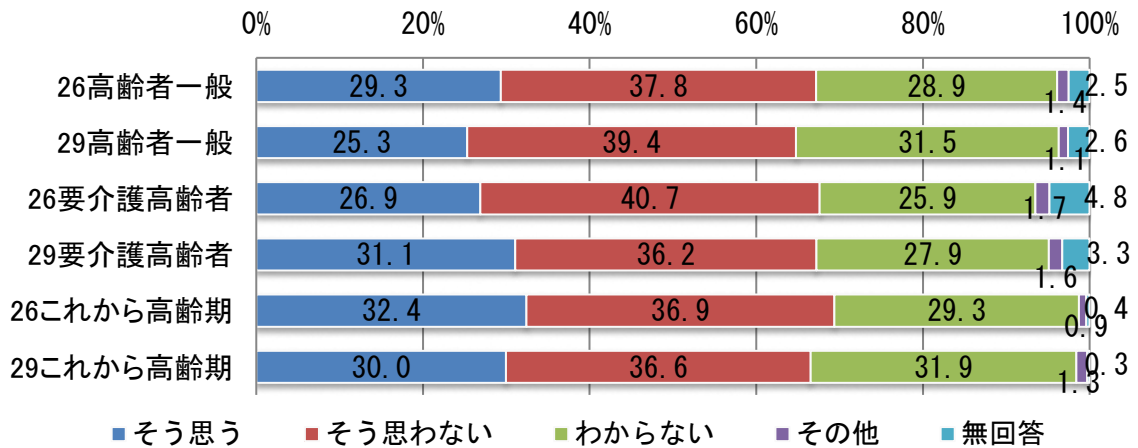


出典：練馬区「高齢者基礎調査報告書（速報）（平成 29 年（2017 年）3 月）」

図表 34：在宅療養の希望等

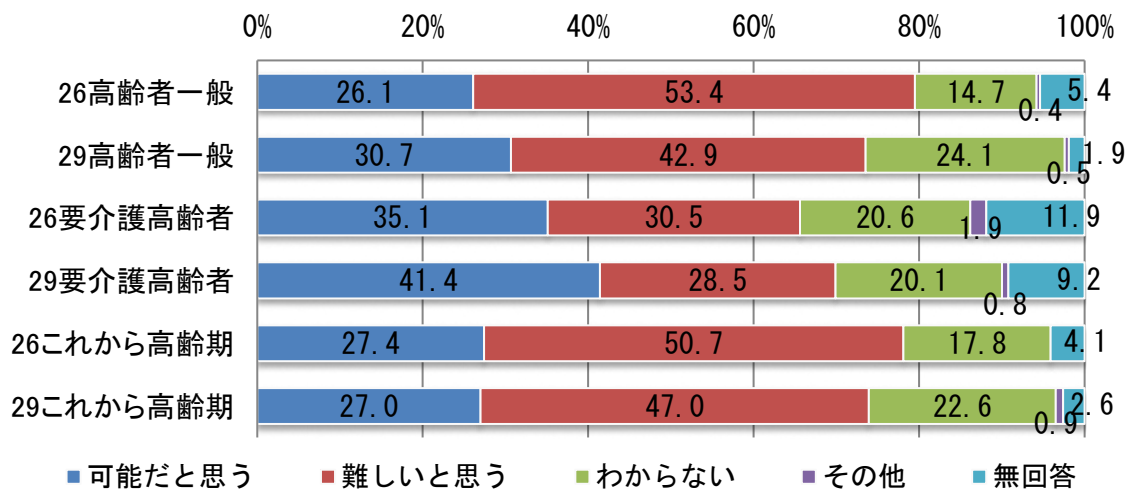
・在宅療養の希望

前回調査（平成 26 年（2014 年））に比べ在宅療養を希望する要介護高齢者が 4.2 ポイント増加している。



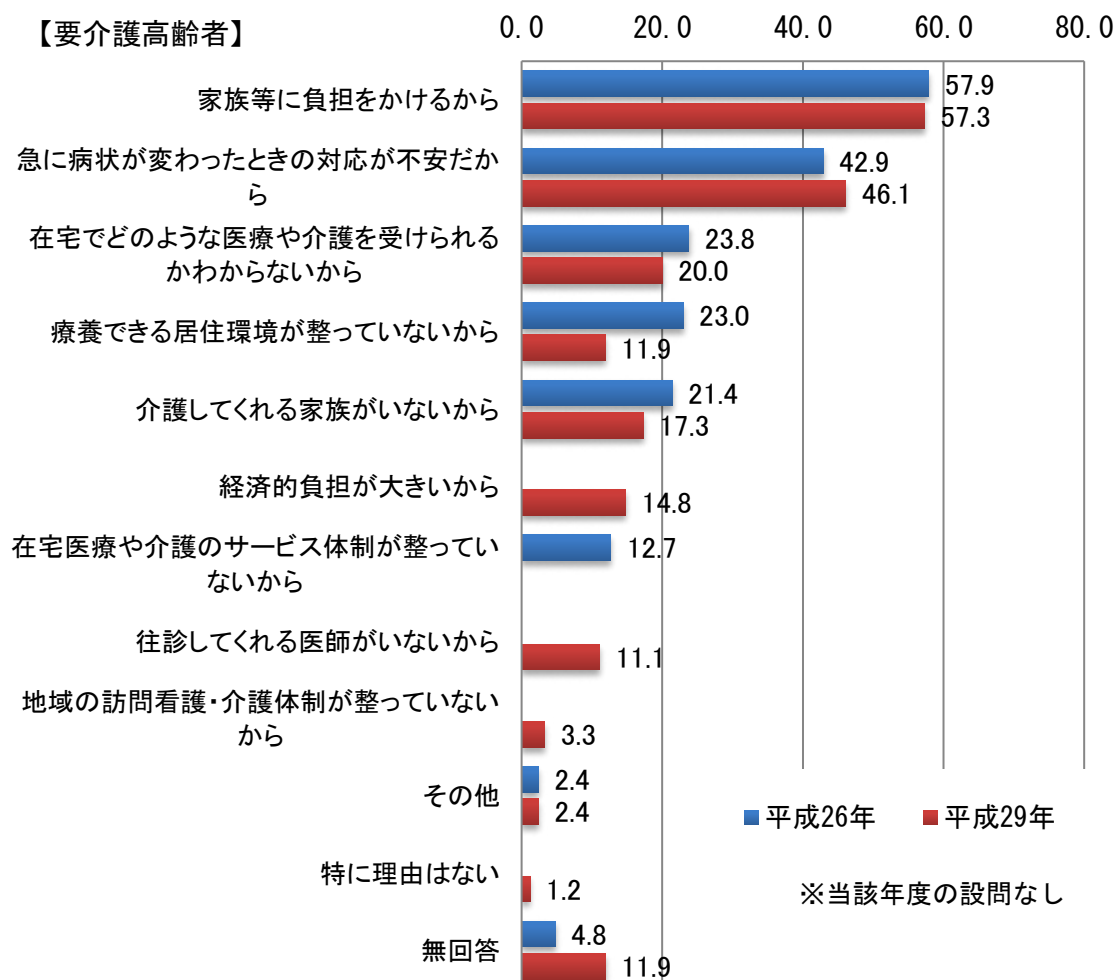
・在宅療養の実現可能性

在宅療養を希望すると回答した人の実現可能性については高齢者一般で 4.6 ポイント、要介護高齢者で 6.3 ポイント増加している。



・ 在宅療養が難しいと思う理由（複数回答）

在宅療養を希望しない理由として、「家族への負担」が最も多く、次いで「急変時の対応への不安」であった。また、今回調査で新設した「経済的負担感」、「訪問診療医がない」が1割を超えていた。



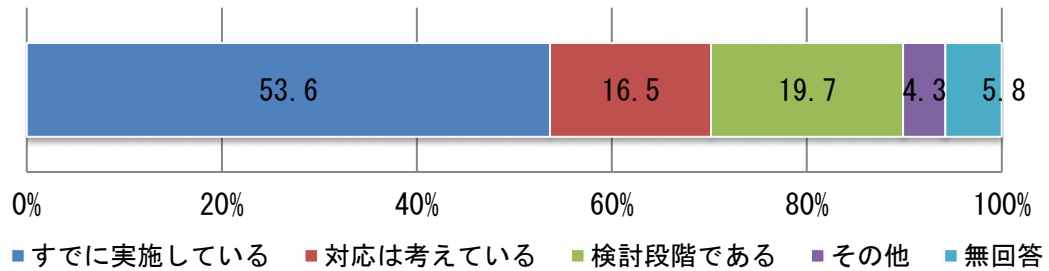
出典：練馬区「高齢者基礎調査報告書（速報）（平成29年3月）」

図表 35：介護サービス事業者調査

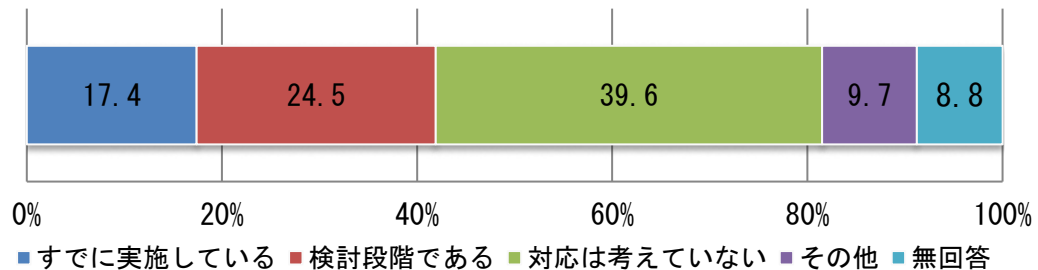
・ターミナルケアへの対応等

ターミナルのケアへの対応は 53.6%がすでに実施している。たん吸引等は 39.6%の事業者が対応は考えていないと回答している。

・ターミナルケアへの対応



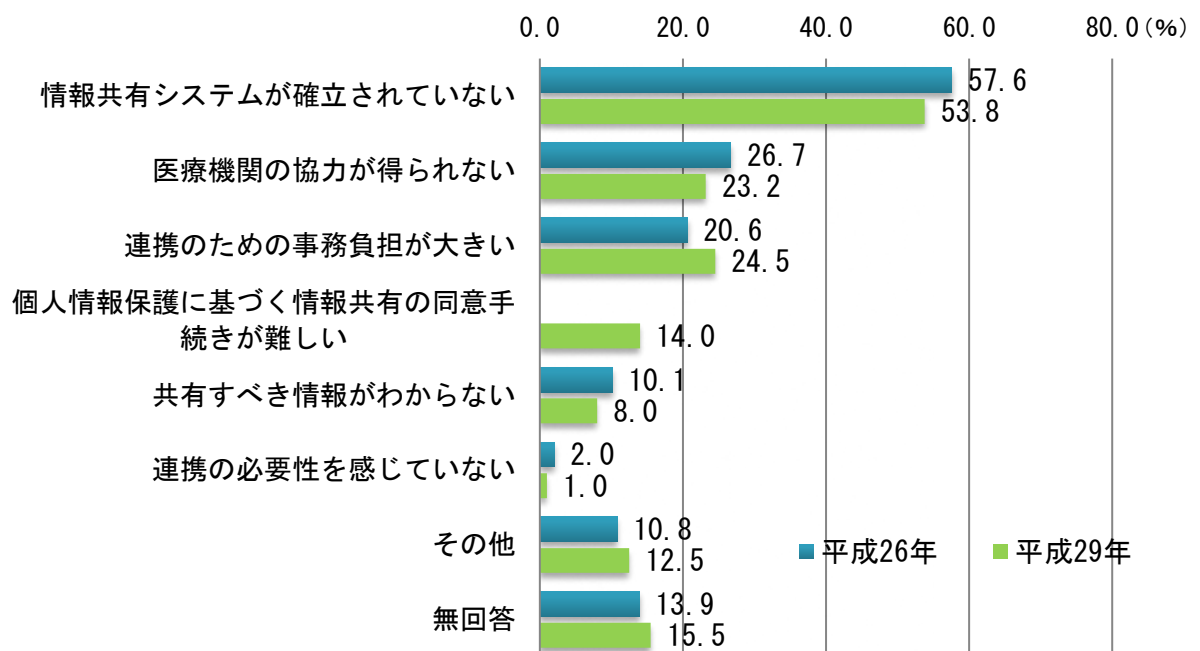
・介護職員によるたんの吸引等医療的ケアへの対応



・医療機関との連携

・医療機関と連携を進める上での課題（複数回答）

半数の事業者が情報共有システムの確立が必要と答えているが、2割以上の事業者が連携のための事務に負担を感じている。



出典：練馬区「高齢者基礎調査報告書（速報）（平成 29 年（2017 年）3 月）」

(5) 区における在宅医療・介護連携推進事業の状況

図表 36：区における在宅医療・介護連携推進事業について

区における在宅医療・介護連携推進事業について	
1	ア) 地域の医療・介護の支援の把握 (1) 医療と介護の情報サイトの開設 (平成 29 年 1 月～) (2) 介護サービス事業者ガイドブック (ハートページ) の発行 (各年) (3) 練馬区内医療機関名簿の発行 (各年)
2	イ) 在宅医療・介護連携の課題抽出と対応策の検討 (1) 練馬区在宅療養推進協議会、在宅療養専門部会、認知症専門部会 (平成 25 年度～)
3	ウ) 切れ目のない在宅療養と在宅介護の提供体制の構築推進 (1) 後方支援病床の確保 (平成 26 年度～) (2) 退院連携推進事業 (退院支援の課題抽出) の実施 (平成 28 年度～)
4	エ) 医療・介護関係者の情報共有の支援 (1) 医療・介護連携シートの配布 (平成 27 年 11 月～) (2) I C Tを活用した情報共有の試行 (平成 28 年度～)
5	オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援 (1) 医療と介護の相談窓口の設置 (平成 27 年度～) (2) 医療・介護連携推進員の配置 (平成 27 年度～)
6	カ) 医療・介護関係者の研修 (1) 事例検討会・多職種交流会の開催 (平成 26 年度～) (2) 訪問看護同行研修の開催 (平成 26 年度～) (3) コーディネート能力向上研修の開催 (平成 26 年度～) (4) 地域カンファレンス (平成 28 年度～)
7	キ) 地域住民への普及啓発 (1) 在宅療養講演会の開催 (平成 26 年度～) (2) 認知症講演会 (平成 26 年度～) (3) 在宅療養ガイドブック「わが家で生きる」の発行 (平成 27 年度～) (4) 認知症ガイドブックの発行 (平成 27 年度～)
8	ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携 (1) 在宅療養の推進に関する二次保健医療圏における意見交換会 (平成 27 年度～)

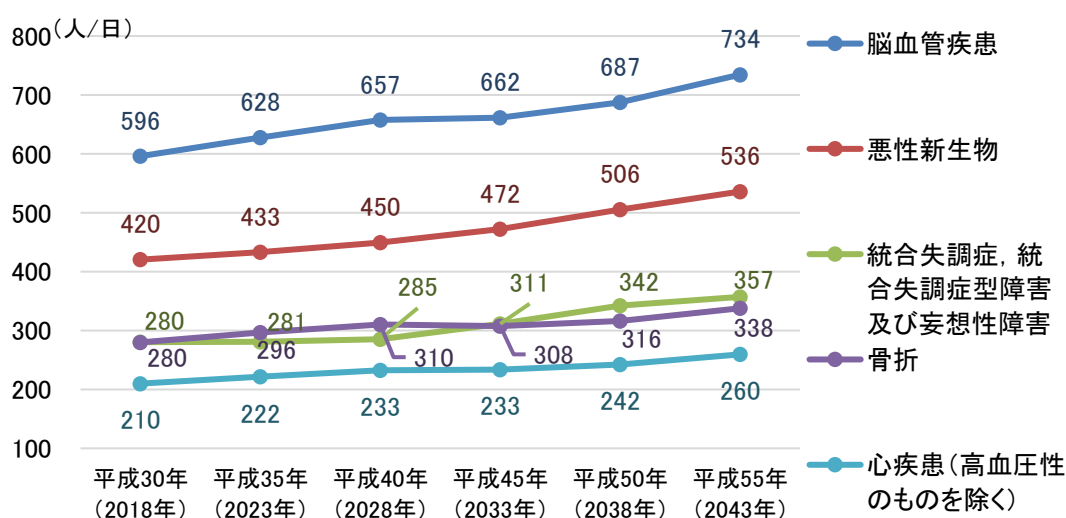
17 年齢階層別入院患者数の推計

(1) 上位 5 疾患の年齢階層別・疾患別入院患者数の推計

ア 65 歳以上（高齢者全般）

- ・ 高齢者の入院患者数の多い上位 5 疾患は、「脳血管疾患¹⁷」「悪性新生物¹⁸」「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害¹⁹」「骨折²⁰」「心疾患（高血圧性のものを除く）²¹」であり、5 疾病で約 5 割を占めます。高齢者人口の増加に伴い、入院患者数も増加していきます。

図表 37：65 歳以上の入院患者推計（患者住所地ベース）



出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

¹⁷ 脳血管疾患…脳の血管の異常によって脳細胞が障害を受ける病気の総称。主なものには、脳卒中がある。脳卒中は特に後遺症が残りやすい疾患で、その多くは脳梗塞といわれており、脳の血管内に血栓（血のかたまり）が詰まることで引き起こされる病気。

¹⁸ 悪性新生物…細胞が何らかの原因で変異して増殖を続け、周囲の正常な組織を破壊する腫瘍。がんや肉腫などがこれに入る。

¹⁹ 統合失調症、統合失調症障害及び妄想性障害…幻覚や妄想という症状が特徴的な精神疾患。

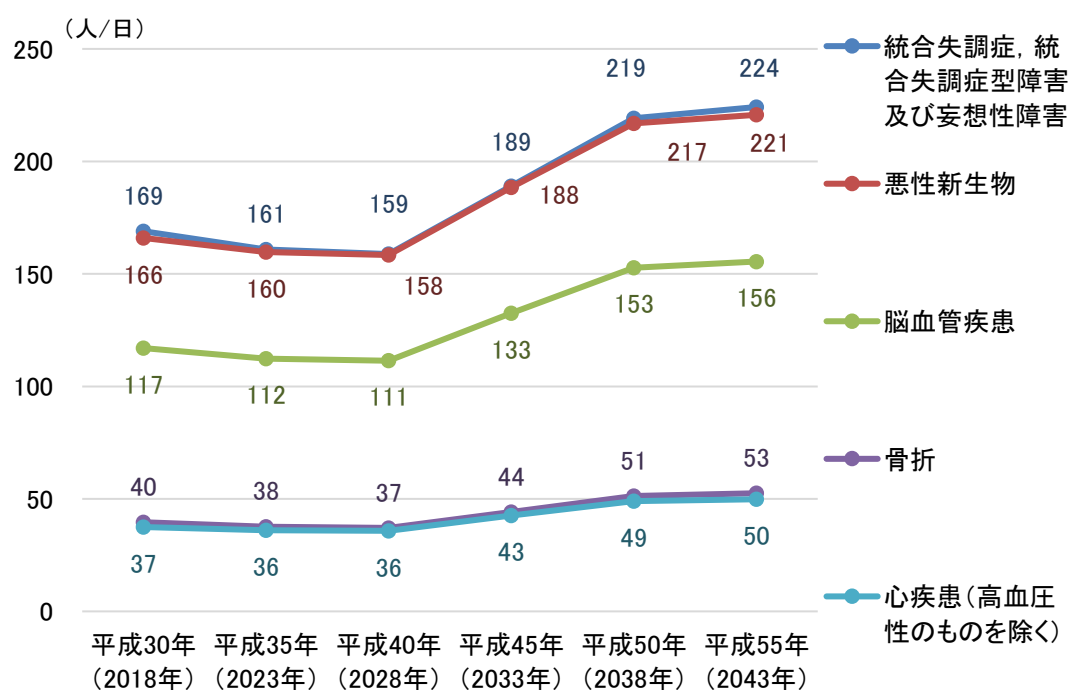
²⁰ 骨折…直接あるいは間接的に加わった強い外力により、骨のつながりが途絶えてしまう状態。

²¹ 心疾患（高血圧性のものを除く）…心臓に起こる病気の総称。心疾患の大部分を占めているのが「虚血性心疾患」。虚血性心疾患は、心臓の筋肉（心筋という）へ血液を送る冠動脈の血流が悪くなり、心筋が酸素不足・栄養不足に陥るものをいう。この中で最も致命的なものが「急性心筋梗塞」。急性心筋梗塞は、冠動脈に血栓（血のかたまり）が詰まることで引き起こされる病気。概ね 30 分以内の治療（カテーテル治療等）開始が一つの目安となっており、一刻も早く CCU（冠疾患集中治療室：心臓疾患の患者を専門的に管理する治療室）を有する病院で治療を受けることが重要。

イ 65～74 歳（前期高齢者）

- 65～74 歳（前期高齢者）の入院患者数の多い上位 5 疾患は、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」「悪性新生物」「脳血管疾患」「骨折」「心疾患（高血圧性のものを除く）」です。団塊の世代が後期高齢者に移行することに伴い、平成 30 年（2018 年）代後半まで患者数は減少しますが、その後増加に転じると見込まれます。

図表 38：65～74 歳の入院患者数の推計（患者住所地ベース）

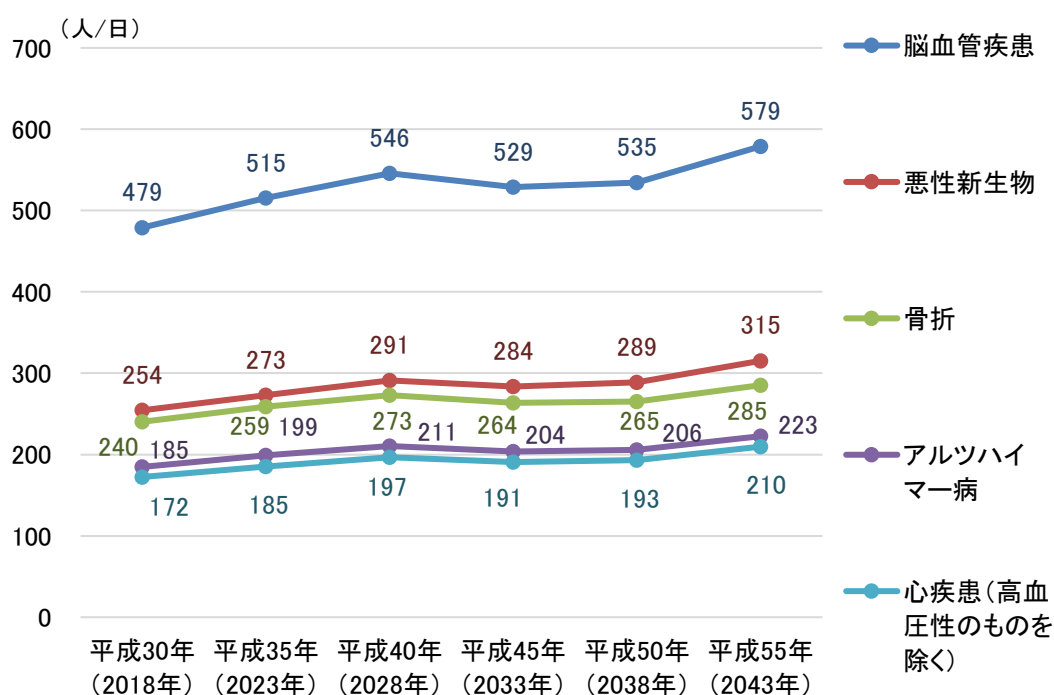


出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

ウ 75 歳以上（後期高齢者）

- 75 歳以上（後期高齢者）の入院患者数の多い上位 5 疾患は、「脳血管疾患」「悪性新生物」「骨折」「アルツハイマー病²²」「心疾患（高血圧性のものを除く）」です。前期高齢者では 3 位であった脳血管疾患が 1 位になっています。また、アルツハイマー病が 4 位となっています。

図表 39：75 歳以上の入院患者数の推計（患者住所地ベース）



出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

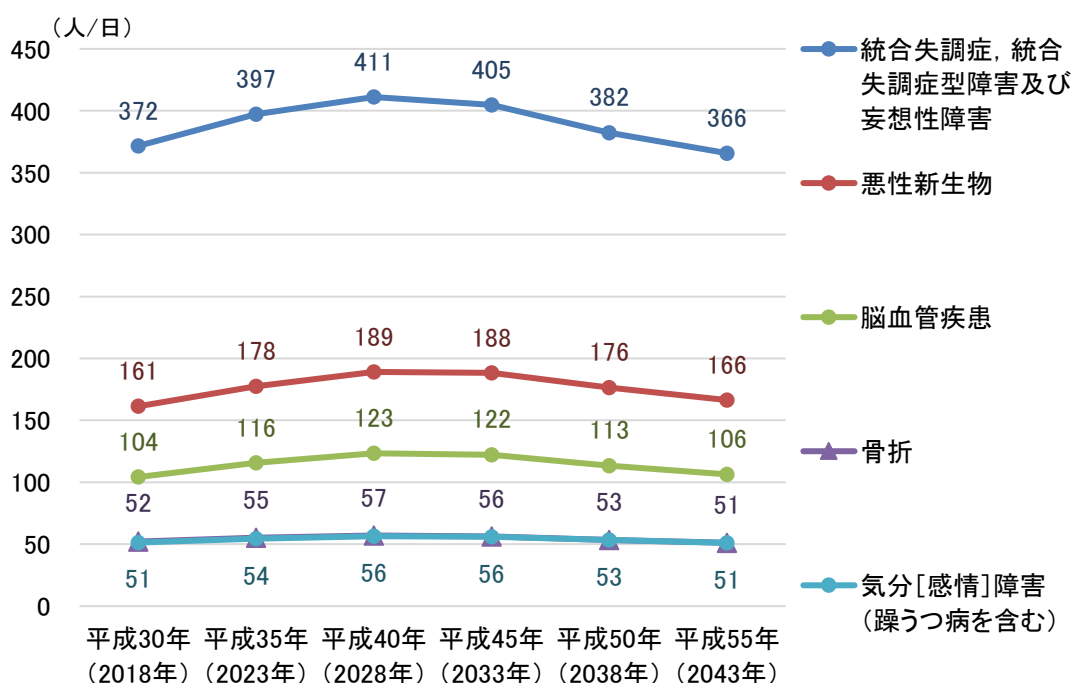
※図表 37 65 歳以上の入院患者数と、図表 38 65～74 歳の入院患者数と図表 39 75 歳以上の入院患者数の合計は、小数点以下の処理の関係で数値が合致しない場合がある。

²² アルツハイマー病…認知機能の低下や人格の変化が主な症状である認知症の一種。ほとんどのアルツハイマー病の患者は、60 歳以降に初めて症状が現れる。

エ 15～64 歳

- ・ 15～64 歳の入院患者数の多い上位 5 疾患は、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」「悪性新生物」「脳血管疾患」「骨折」「気分『感情』障害（躁うつ病を含む）²³」であり、5 疾病で約 5 割を占めます。いずれも、平成 40 年（2028 年）まで微増し、以降減少に転じます。平成 55 年（2043 年）には平成 30 年（2018 年）と同程度と推計されます。

図表 40：15～64 歳の入院患者数の推計（患者住所地ベース）



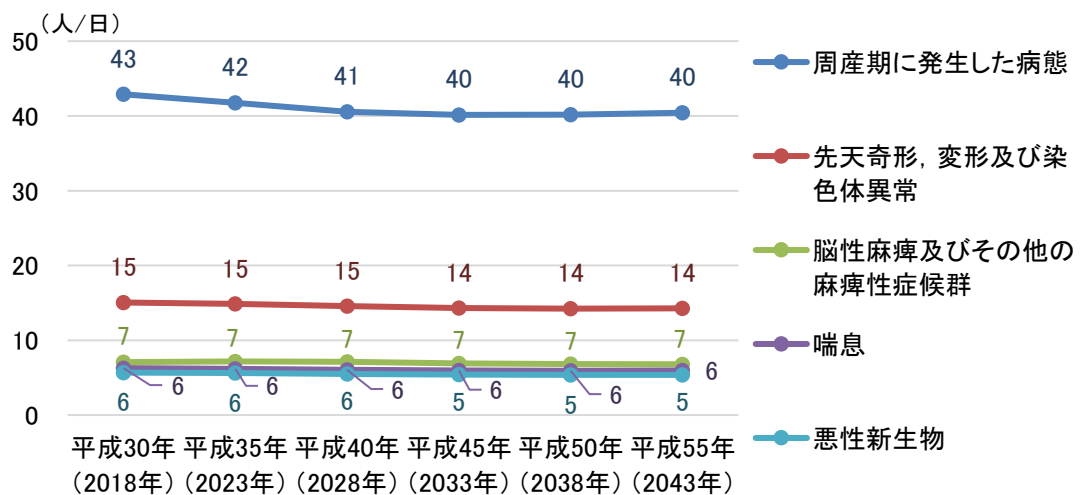
出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

²³ 気分「感情」障害（躁うつ病を含む）…感情や意欲の面で極端な上昇や落ち込みが現れる精神疾患。気分障害はうつ病のみを繰り返すものと、躁状態とうつ状態を繰り返す躁うつ病があり、自殺リスクが高いことが特徴。

オ 0～14 歳

- ・ 0～14 歳の入院患者数の多い上位 5 疾患は、「周産期に発生した病態²⁴」「先天性奇形、変形及び染色体異常²⁵」「脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群²⁶」「喘息²⁷」「悪性新生物」であり、5 疾病で約 5 割を占めます。いずれも減少し横ばい傾向になると見込まれます。

図表 41：0～14 歳の入院患者数の推計（患者住所地ベース）



出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

²⁴ 周産期に発生した病態…早産による低出生体重児や分娩時の新生児仮死などが発生している状態。

²⁵ 先天性奇形、変形及び染色体異常…先天的に確認される異常の 1 つ。先天異常は形態的なものや内分泌系、神経、知能の発達など様々なものがある。疾患名では、無脳症や二分脊椎症、ダウン症、口唇裂・口蓋裂、小眼症などが挙げられる。

²⁶ 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群…受精後から生後 4 週以内に何らかの原因で脳に損傷を受けることで引き起こされる運動機能の障害をさす症候群。

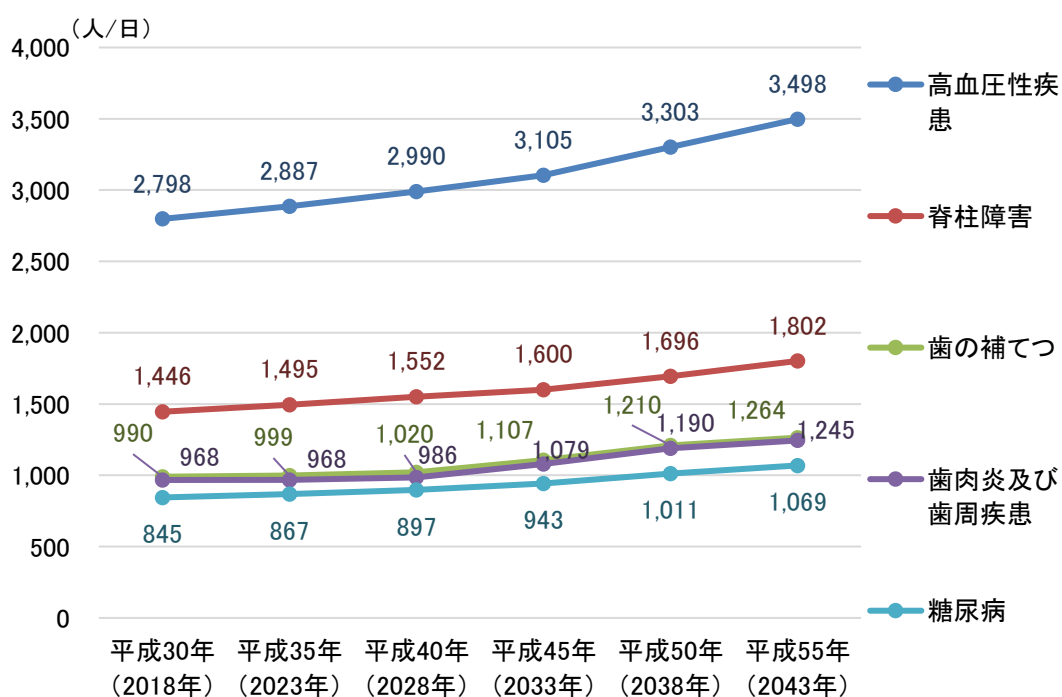
²⁷ 喘息…気管支が急激に収縮し、呼吸困難の発作を繰り返す病気。特に小児の喘息は、ハウスダストやダニ、花粉のアレルギーで起こることが多いといわれている。

(2) 上位 5 疾患の年齢階層別・疾患別外来患者数の推計

ア 65 歳以上（高齢者全般）

・高齢者の外来患者数の多い上位 5 疾患は、「高血圧性疾患²⁸」「脊柱障害²⁹」「歯の補てつ³⁰」「歯肉炎及び歯周疾患³¹」「糖尿病³²」です。高齢化の進展に伴って、患者数は増加します。特に高血圧性疾患の患者数は約 700 人増加します。

図表 42：65 歳以上の外来患者数の推計（患者住所地ベース）



出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

²⁸ 高血圧性疾患…高血圧が原因で心臓に障害の起きた状態。

²⁹ 脊柱障害…何らかの原因で脊柱が曲がったり、脊柱管内のスペースがつぶれたりすることで、しびれや麻痺等が発生する障害。

³⁰ 歯の補てつ…見た目やかみ合わせを被せ物（クラウン）や入れ歯等人工の歯で補う治療法。

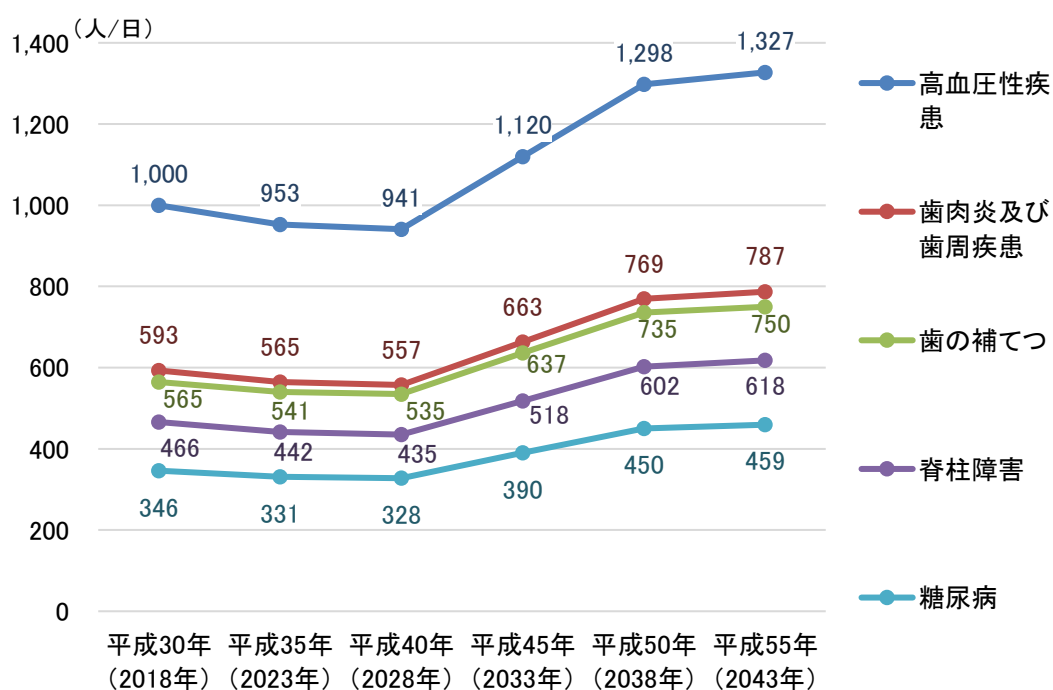
³¹ 歯肉炎及び歯周疾患…歯肉炎は、歯肉が赤くなる、炎症や腫れ、歯肉出血などが起きた状態。歯周疾患は、歯肉、歯槽骨（歯を支えている骨）などの歯周組織におこる病気の総称。

³² 糖尿病…糖尿病は、国民の 5 人に 1 人以上が糖尿病患者または予備群といわれるほど患者数が多い疾病。適切な治療をせずに重症化すると、糖尿病性昏睡等の急性合併症や大血管の動脈硬化による虚血性心疾患・脳梗塞、神経や目や腎臓などにさまざまな障害を起こす慢性合併症、歯周病等、全身におよぶ合併症を引き起こす。

イ 65～74 歳（前期高齢者）

- ・ 65～74 歳（前期高齢者）の外来患者数の多い上位 5 疾患は、「高血圧性疾患」「歯肉炎及び歯周疾患」「歯の補てつ」「脊柱障害」「糖尿病」です。団塊の世代が後期高齢者に移行することに伴い、平成 30 年（2018 年）～40 年（2028 年）にかけて患者数は減少しますが、その後増加に転じると見込まれます。

図表 43：65～74 歳の外来患者数の推計（患者住所地ベース）

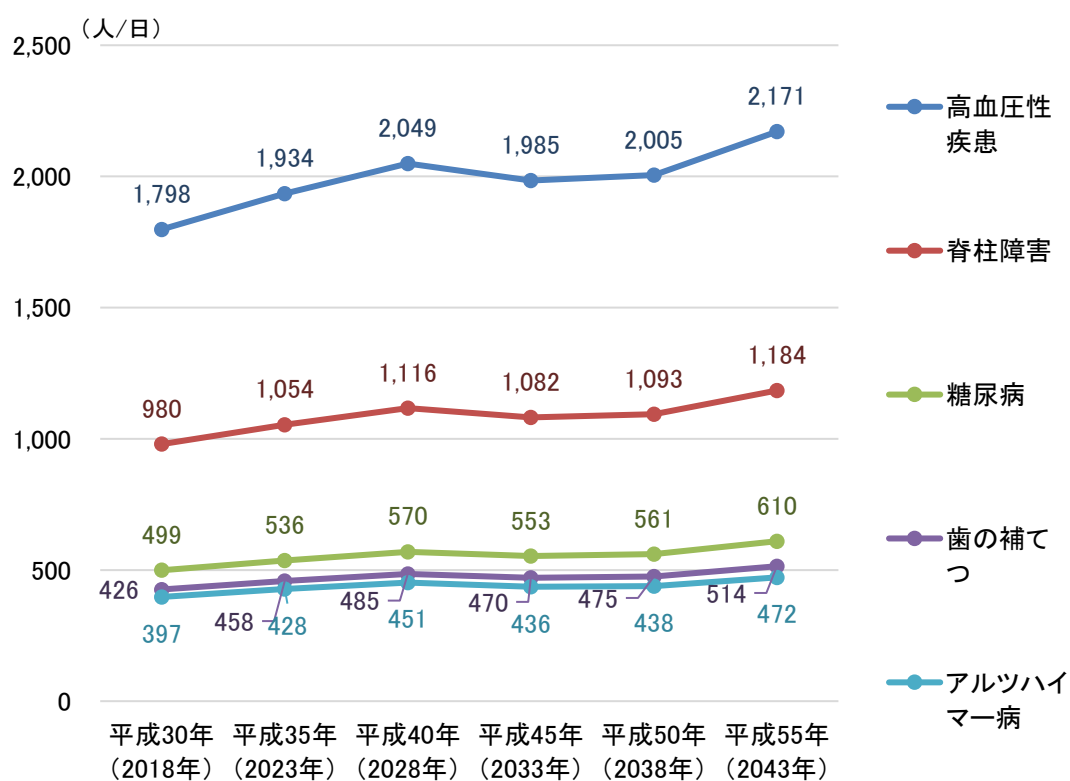


出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

ウ 75 歳以上（後期高齢者）

- 75 歳以上（後期高齢者）の外来患者数の多い上位 5 疾患は、「高血圧性疾患」「脊柱障害」「糖尿病」「歯の補てつ」「アルツハイマー病³³」です。前期高齢者より患者数が多く、増加傾向が続きます。また、入院患者の場合と同様、前期高齢者にはなかったアルツハイマー病が入っています。

図表 44：75 歳以上の外来患者数の推計（患者住所地ベース）



出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

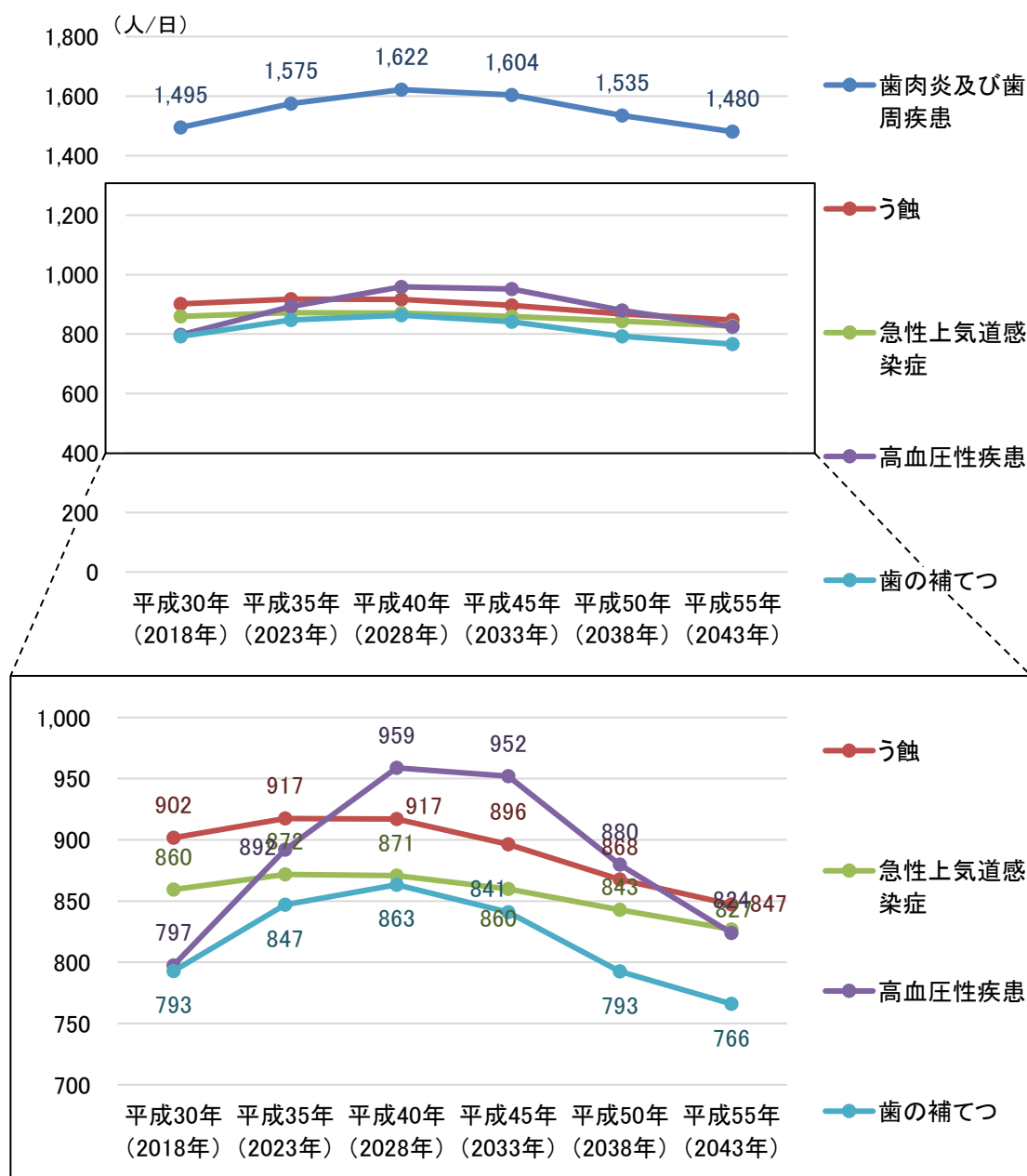
※図表 42 65 歳以上の外来患者数と、図表 43 65～74 歳の外来患者数と図表 44 75 歳以上の外来患者数の合計は、小数点以下の処理の関係で数値が合致しない場合がある。

³³ アルツハイマー病…認知機能の低下や人格の変化が主な症状である認知症の一種。ほとんどのアルツハイマー病の患者は、60 歳以降に初めて症状が現れる。

エ 15～64 歳

- 15～64 歳の外来患者数の多い上位 5 疾患は、「歯肉炎及び歯周疾患」「う蝕³⁴」「急性上気道感染症³⁵」「高血圧性疾患」「歯の補てつ」です。平成 30 年（2018 年）代前半から 40 年（2028 年）にかけて増加し、その後減少すると見込まれます。

図表 45：15～64 歳の外来患者数の推計（患者住所地ベース）



出典：厚生労働省「平成 26 年（2014 年）患者調査」、練馬区企画課資料（平成 30 年（2018 年）1 月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

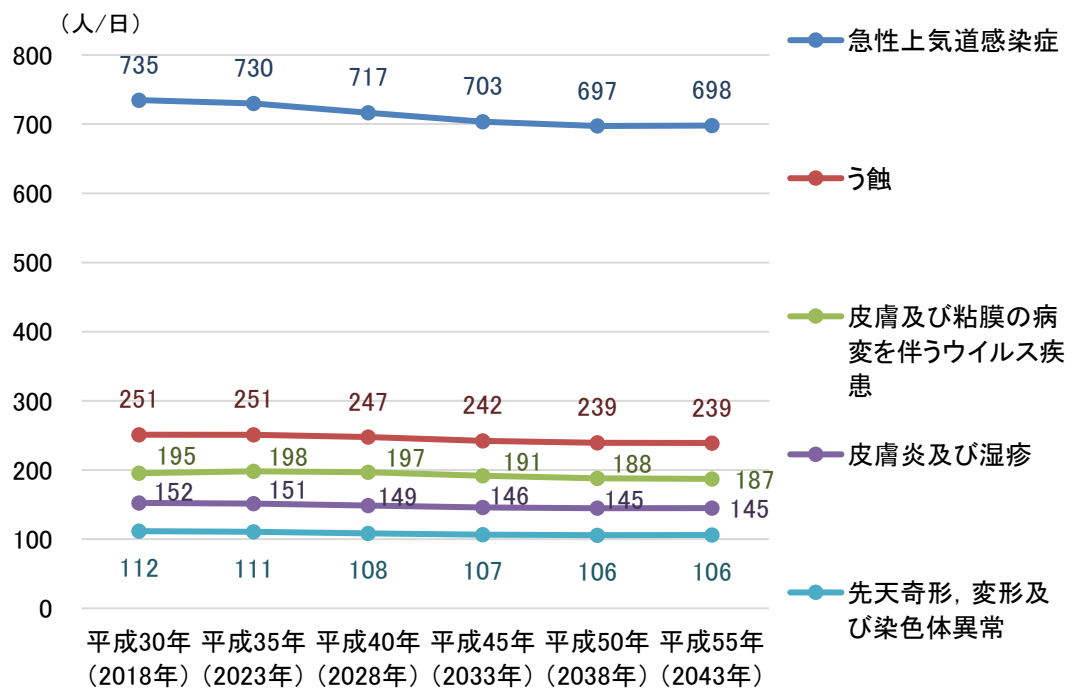
³⁴ う蝕…口腔内の細菌が糖質から作った酸によって、歯質が脱灰されて起こる、歯の実質欠損のこと（虫歯）。

³⁵ 急性上気道感染症…鼻やのど（上気道）が炎症を起こしている状態の総称。

オ 0～14 歳

・0～14歳の外来患者数の多い上位5疾患は、「急性上気道感染症」「う蝕」「皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス疾患³⁶」「皮膚炎及び湿疹³⁷」「先天奇形、変形及び染色体異常」です。年少人口の減少に伴い、患者数も減少し横ばい傾向となります。

図表 46：0～14歳の外来患者数の推計（患者住所地ベース）



出典：厚生労働省「平成26年（2014年）患者調査」、練馬区企画課資料（平成30年（2018年）1月推計）を参考に練馬区医療環境整備課推計

³⁶ 皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス疾患…小児患者の手足口病や原因不明の発疹が主な疾患。

³⁷ 皮膚炎及び湿疹…皮膚表面に起こる炎症のこと。

18 区と医療圏の小児救急医療の提供体制

- ・夜間や休日に対応している小児二次救急医療機関は、区内に 2 か所あります。区内に東京都こども救命センター³⁸の配置はなく、医療圏では、日本大学医学部附属板橋病院の 1 か所です。

図表 47：小児救急医療の提供体制

区分		施設名	
		練馬区	医療圏（豊島区・北区・板橋区）
小児救急医療	東京都こども救命センター	—	・ 日本大学医学部附属板橋病院
	夜間や休日に対応している東京都内の小児二次救急医療機関	・ 練馬光が丘病院 ・ 順天堂大学医学部附属練馬病院	・ 東京都立大塚病院 ・ 東京北医療センター ・ 日本大学板橋病院 ・ 豊島病院 ・ 帝京大学医学部附属病院
	夜間や休日に対応している東京都内の小児初期救急医療機関	・ 練馬休日急患診療所（練馬区夜間救急こどもクリニック） ・ 石神井休日急患診療所 ・ ※練馬区は上記の他に「練馬区小児初期救急医療事業」を実施し、順天堂大学医学部附属練馬病院、練馬光が丘病院、島村記念病院に委託している	・ 豊島区池袋休日診療所 ・ 豊島（平日準夜間）こども救急 ・ 豊島区長崎休日診療所 ・ 北区休日診療所 ・ 東京北医療センター ・ 板橋区平日夜間応急こどもクリニック

練馬区の小児救急患者推移

(人)

医療機関	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
練馬区夜間救急こどもクリニック	4,511	4,305	4,073
練馬休日急患診療所	3,066	2,986	2,767
石神井休日急患診療所	4,295	3,996	3,934
順天堂大学医学部附属練馬病院	3,729	3,512	3,478
練馬光が丘病院	4,528	5,392	5,104
島村記念病院	520	501	264
計	20,649	20,692	19,620

出典：東京都こども救命センター：東京都福祉保健局ホームページ「三次救急医療（東京都こども救命センター）」

夜間や休日に対応している東京都内の小児二次救急医療機関：東京都福祉保健局ホームページ「二次救急医療（休日・全夜間診療事業（小児科）参画医療機関）（平成 28 年（2016 年）4 月現在）」

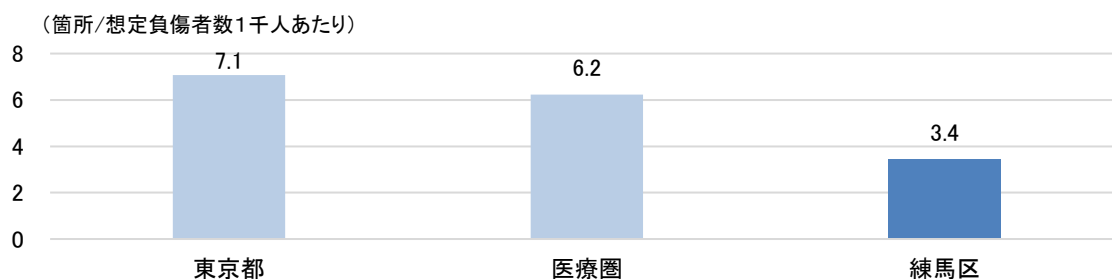
夜間や休日に対応している東京都内の小児初期救急医療機関：東京都福祉保健局ホームページ「夜間や休日に対応している東京都内の小児初期救急医療機関一覧（平成 28 年（2016 年）7 月現在）」

³⁸ 東京都こども救命センター…東京都において、他の医療機関では救命治療の継続が困難な小児重篤患者の受入要請があった場合に、患者を必ず受け入れ、迅速かつ適切な救命治療を行う施設。

19 首都直下地震等における被害想定に対する災害拠点病院数の状況

- ・ 災害時の想定負傷者あたりの東京都災害拠点病院指定医療機関³⁹の数を、東京都・医療圏と比べると、区の医療機関は約半数の状況です。

図表 48：想定負傷者1千人あたりの東京都災害拠点病院指定医療機関数



図表 49：東京都災害拠点病院一覧

二次保健医療圏	施設名	病床数
区西北部	東京都立大塚病院	508
	東京北医療センター	280
	日本大学医学部附属板橋病院	1,037
	帝京大学医学部附属病院 (地域災害拠点中核病院)	1,154
	東京都健康長寿医療センター	550
	東京都保健医療公社豊島病院	470
	練馬光が丘病院	342
	順天堂大学医学部附属練馬病院	400

出典：東京都防災ホームページ「首都直下地震等による東京の被害想定（平成24年（2012年）4月18日公表）」東京都災害拠点病院：東京都福祉保健局ホームページ「東京都災害拠点病院（平成26年（2014年）9月15日）」

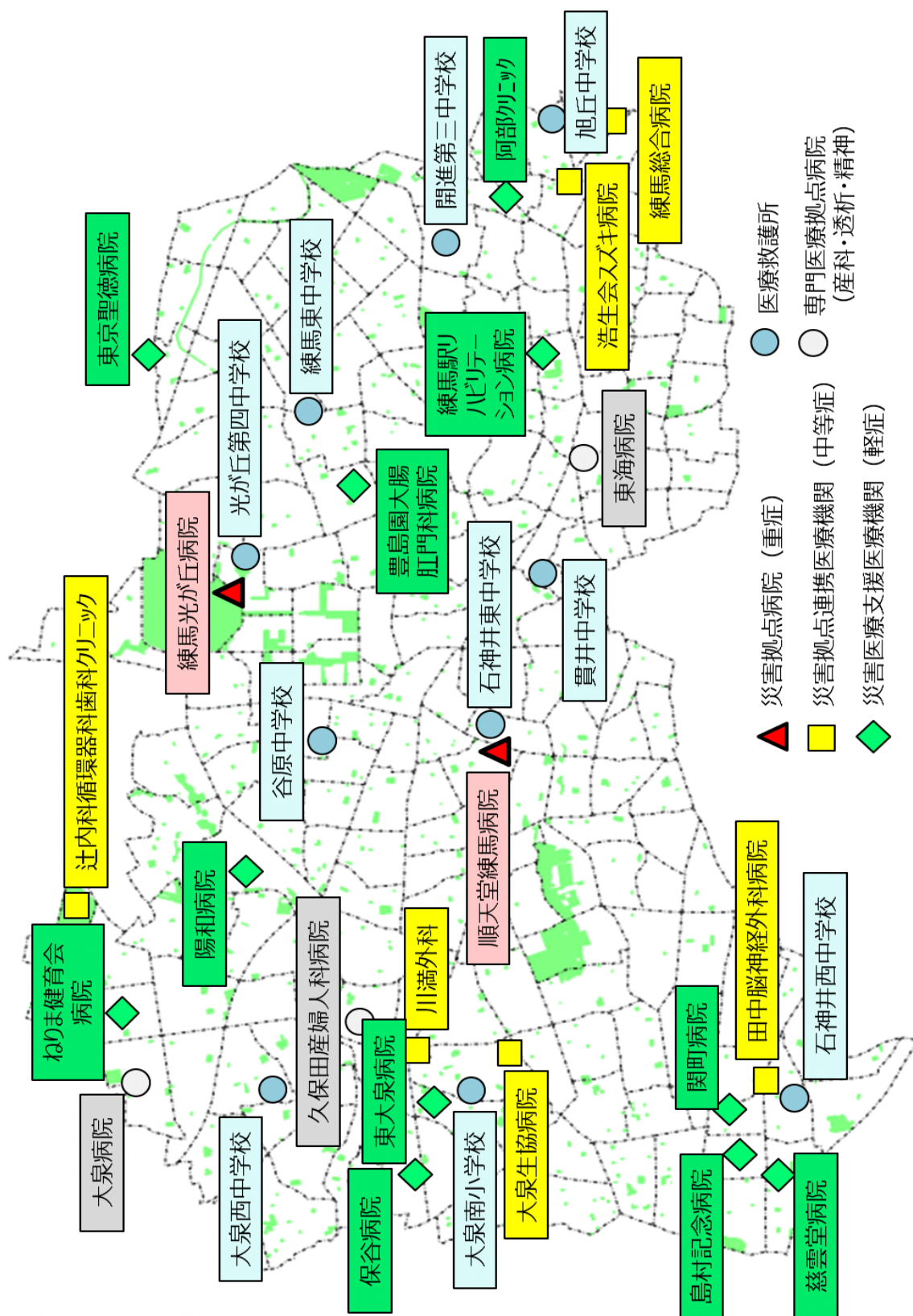
図表 50：多摩直下地震（M7.3） 冬5時、風速8m/秒時の想定負傷者数

	東京都	医療圏	練馬区
負傷者	114,658人	14,512人	5,389人
うち重傷者	11,319人	1,284人	585人

出典：東京都防災ホームページ「首都直下地震等による東京の被害想定（平成24年（2012年）4月18日公表）」

³⁹ 災害拠点病院指定医療機関…災害時において主に重症者の収容・治療を行う病院

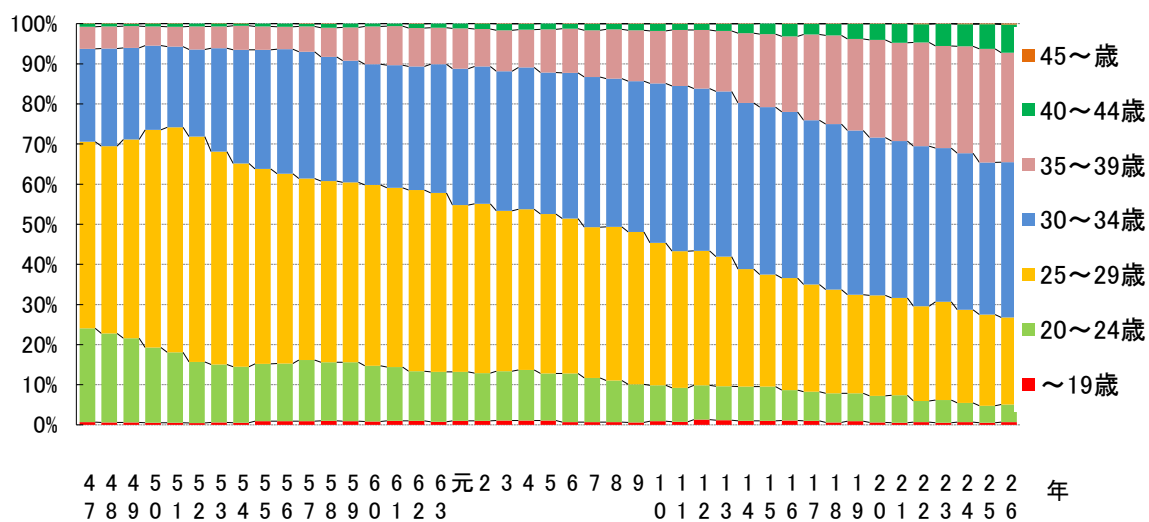
練馬区の医療救護所・災害時医療機関マップ



20 母親の年齢階級別出生数に関する構成比

- ・ 母親の年齢階層別出生数の構成比の推移をみると、年齢層の高い母親の出生数の割合が増加しています。

図表 51：母親の年齢階級別出生数に関する構成比の推移（練馬区）

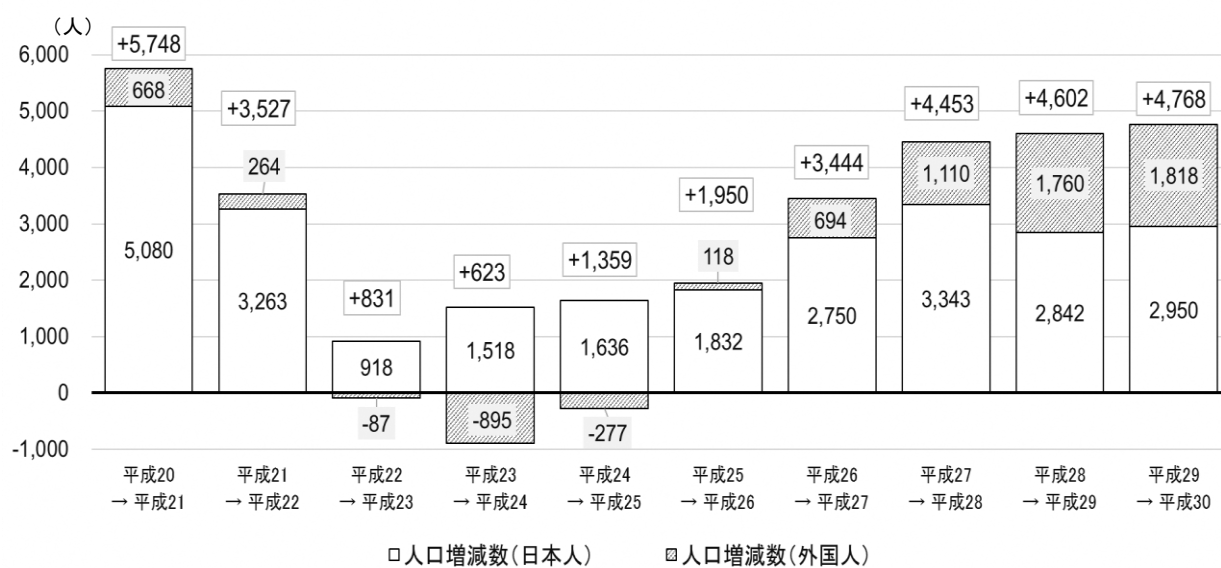


出典：練馬区人口ビジョン（平成 27 年（2015 年）12 月）

21 外国人の増減数

- ・ 外国人の転入者数は、平成 20 年（2008 年）から減少していましたが、平成 25 年（2013 年）からは一転して増加傾向となり、平成 29 年（2017 年）から平成 30 年（2018 年）の人口増の約 4 割は外国人の転入によるものです。

図表 52：年間の人口増減数（日本人、外国人別、各年 1 月 1 日時点の人口間で比較）



出典：みどりの風吹くまちビジョンアクションプラン【素案】

22 特定健康診査等の実施状況

図表 53：特定健康診査の実施率①

特定健康診査の実施率は上がっているが、目標値とは大きな差が生じている。

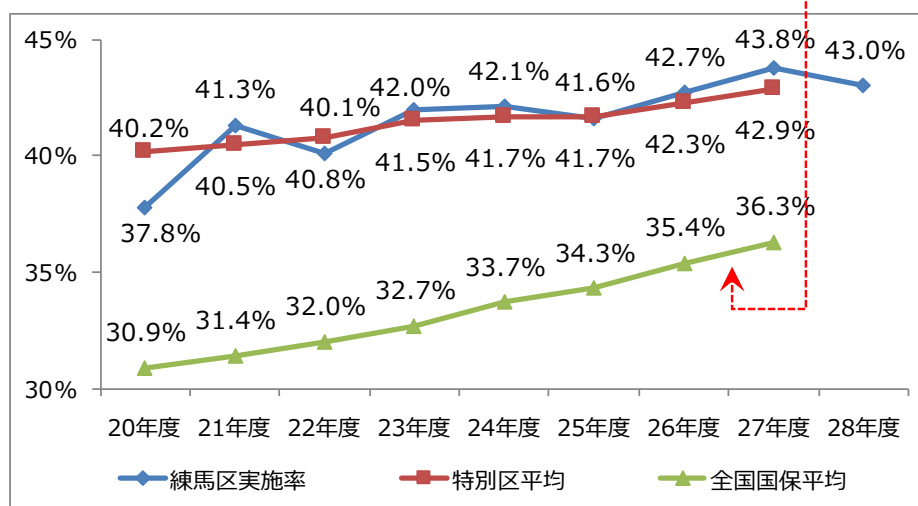
① 特定健康診査の実績および目標の推移

- 第二期特定健康診査等実施計画では、29年度まで60%を目指すこととし、28年度は「55%」に設定しているが、目標値とは大きな差が生じている。

年度	対象者	実施者	目標値 (※)	実施率	特別区 平均	全国国保 平均
20年度	116,594	44,021	45%	37.8%	40.2%	30.9%
21年度	114,187	47,216	50%	41.3%	40.5%	31.4%
22年度	113,606	45,533	55%	40.1%	40.8%	32.0%
23年度	113,541	47,634	60%	42.0%	41.5%	32.7%
24年度	112,707	47,494	65%	42.1%	41.7%	33.7%
25年度	111,697	46,503	45%	41.6%	41.7%	34.3%
26年度	109,746	46,834	47.5%	42.7%	42.3%	35.4%
27年度	106,468	46,647	50%	43.8%	42.9%	36.3%
28年度	100,683	43,333	55%	43.0%	—	—

(※) 目標値は、国が定める基準に基づき、特定健康診査等実施計画により区が定めたもの。

- 練馬区の実施率は、全国平均よりも高いが、特別区平均とはほぼ同水準となっている。21年度以降の実施率は、4割以上で推移している。
- 全国で見ても、制度開始以降、着実に実施率が向上している。



出典：練馬区国民健康保険データヘルス計画素案

図表 54：特定健康診査の実施率②

特定保健指導の実施率は横ばい状態であり、目標値とは大きな差が生じている。

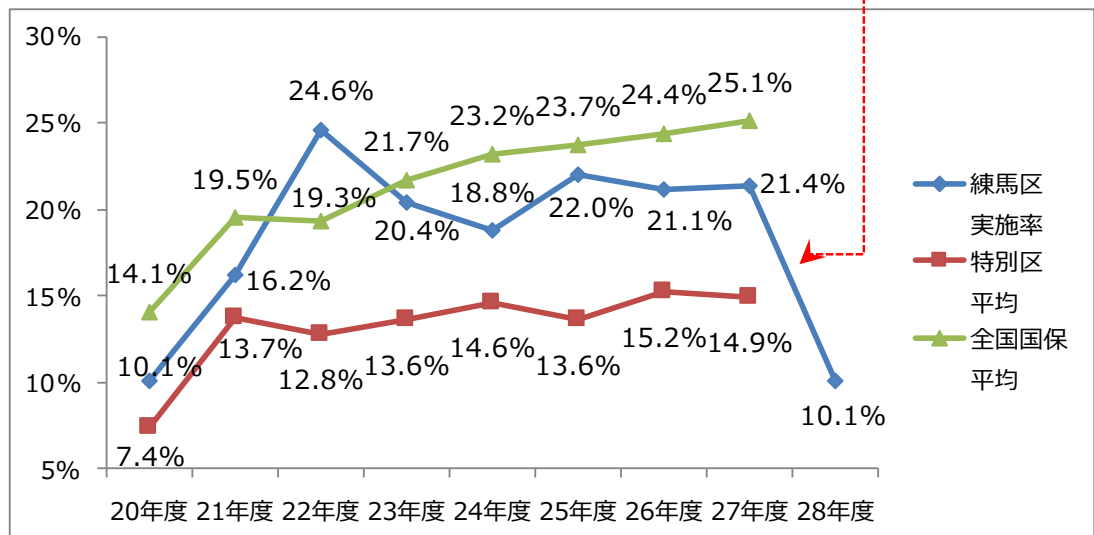
① 特定保健指導の実績および目標の推移

- 第二期特定健康診査等実施計画では、29年度まで60%を目指すこととし、28年度は「55%」に設定しているが、目標値とは大きな差が生じている。

年度	対象者	実施者	目標値(※)	実施率	特別区平均	全国国保平均
20年度	6,147	618	25%	10.1%	7.4%	14.1%
21年度	6,083	986	30%	16.2%	13.7%	19.5%
22年度	5,361	1,321	35%	24.6%	12.8%	19.3%
23年度	5,673	1,158	40%	20.4%	13.6%	21.7%
24年度	5,479	1,030	45%	18.8%	14.6%	23.2%
25年度	5,009	1,102	40%	22.0%	13.6%	23.7%
26年度	5,485	1,155	45%	21.1%	15.2%	24.4%
27年度	5,358	1,146	50%	21.4%	14.9%	25.1%
28年度	5,035	509	55%	10.1%	—	—

(※) 目標値は、国が定める基準に基づき、特定健康診査等実施計画により区が定めたもの。

- 練馬区の実施率は、27年度までは2割程度で推移しており、全国平均と同水準となっているが、28年度は大きく低下している。



出典：練馬区国民健康保険データヘルス計画素案

図表 55：がん検診の状況

がん検診の受診率は、高いもので 20% 台にとどまっている。

① がん検診の受診状況

- 各がん検診の受診者数は、いずれも横ばいとなっている。

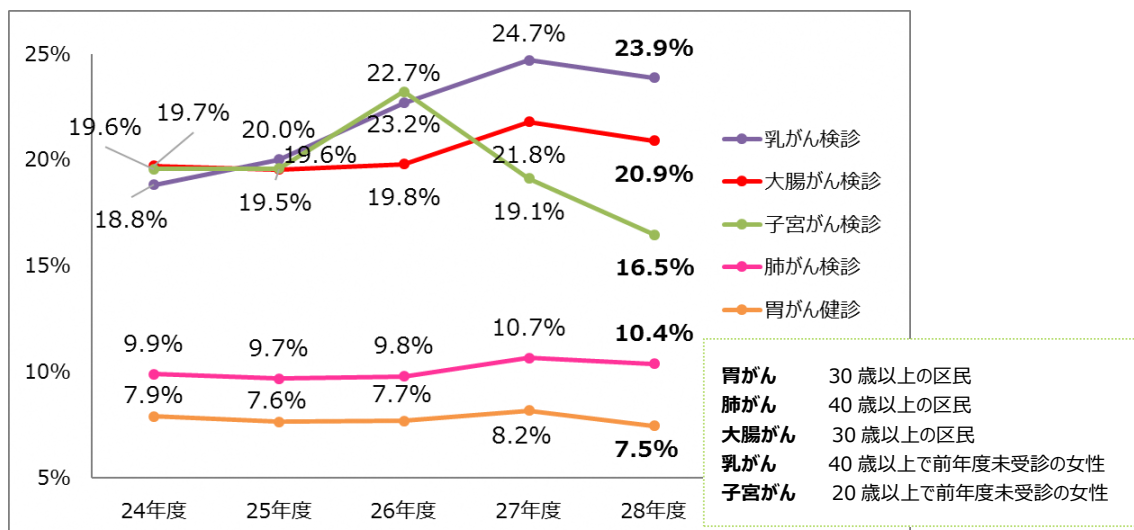
検診の種類（※1）		胃がん	肺がん	大腸がん	乳がん	子宮がん
24 年度	対象者数(※2)	301,750	257,032	330,679	72,974	96,416
	受診者数	23,787	25,415	65,169	13,738	18,860
	受診率	7.9%	9.9%	19.7%	18.8%	19.6%
25 年度	対象者数(※2)	303,794	261,195	332,918	74,161	96,952
	受診者数	23,197	25,275	65,060	14,833	18,978
	受診率	7.6%	9.7%	19.5%	20.0%	19.6%
26 年度	対象者数(※2)	306,100	264,872	335,446	75,236	97,775
	受診者数	23,529	25,936	66,437	17,062	22,703
	受診率	7.7%	9.8%	19.8%	22.7%	23.2%
27 年度	対象者数(※2)	296,487	263,954	317,373	69,873	102,671
	受診者数	24,268	28,137	69,154	17,254	19,625
	受診率	8.2%	10.7%	21.8%	24.7%	19.1%
28 年度	対象者数(※2)	296,487	263,954	317,373	69,873	102,671
	受診者数	22,108	27,413	66,340	16,673	16,903
	受診率	7.5%	10.4%	20.9%	23.9%	16.5%

（※1）国の指針に基づく 5 つのがん検診を記載している。

（※2）対象者数は、24～27 年度は翌年度 4 月 1 日現在の人数、28 年度からは当該年度 4 月 1 日現在の人数

② がん検診の受診率の推移

- がん検診の受診率は、低調で横ばい傾向。いずれも 27 年度から 28 年度にかけて低下した。



出典：練馬区国民健康保険データヘルス計画素案

図表 56：成人歯科健康診査の状況

成人歯科健康診査の受診率は低調で、若い世代になるほど低い傾向にある。

【成人歯科健康診査】

歯周疾患を早期に発見・予防するために、30・40・45・50・60・70歳の区民を対象に実施している。

① 成人歯科健康診査の受診状況【図表6-4①】

- 成人歯科健診の受診率は、若い世代ほど受診率が低くなる傾向がみられ、70歳を除くと、ほぼ5%前後と低調に推移している。

		30歳	40歳	45歳	50歳	60歳	70歳	合計
24年度	対象者数	10,781	12,602	12,105	9,721	7,522	7,423	60,154
	受診者数	449	595	563	547	507	625	3,286
	受診率	4.2%	4.7%	4.7%	5.6%	6.7%	8.4%	5.5%
25年度	対象者数	10,690	12,713	12,571	10,355	7,216	7,770	61,315
	受診者数	395	567	531	552	401	638	3,084
	受診率	3.7%	4.5%	4.2%	5.3%	5.6%	8.2%	5.0%
26年度	対象者数	10,839	11,994	12,050	11,046	7,143	6,442	59,514
	受診者数	367	493	494	624	475	539	2,992
	受診率	3.4%	4.1%	4.1%	5.6%	6.6%	8.4%	5.0%
27年度	対象者数	9,975	11,422	12,257	11,156	7,190	5,297	57,297
	受診者数	325	475	473	615	500	426	2,814
	受診率	3.3%	4.2%	3.9%	5.5%	7.0%	8.0%	4.9%
28年度	対象者数	9,975	11,115	12,295	10,211	7,392	7,281	58,269
	受診者数	285	405	487	476	439	546	2,638
	受診率	2.9%	3.6%	4.0%	4.7%	5.9%	7.5%	4.5%

② 成人歯科健康診査の判定状況(28年度)【図表6-4②】

- 成人歯科健康診査の判定状況は、いずれの年代も「要精密」と判定される割合が最も多く、「異常なし」と判定される割合が最も低い。

年齢	受診者数	判定		
		異常なし	要指導	要精密
30歳	285	27 (9.5%)	30 (10.5%)	228 (80.0%)
40歳	405	31 (7.7%)	71 (17.5%)	303 (74.8%)
45歳	487	33 (6.8%)	67 (13.8%)	387 (79.5%)
50歳	476	32 (6.7%)	63 (13.2%)	381 (80.0%)
60歳	439	28 (6.4%)	47 (10.7%)	364 (82.9%)
70歳	546	32 (5.9%)	50 (9.2%)	464 (85.0%)
合計	2,638	183 (6.9%)	328 (12.4%)	2,127(80.6%)

出典：練馬区国民健康保険データヘルス計画素案

23 医療環境に関するアンケート集計結果

調査概要

練馬区の医療提供体制を整備するための参考として、練馬区民に医療環境に関するアンケート調査を実施した。

対象：練馬区に住民票のある成人区民から無作為抽出した 3,000 人

方法：郵送法

期間：平成 29 年 7 月 18 日～8 月 2 日

※調査結果には 8 月 8 日までに回答のあったものを含む

有効回答数・有効回答率

送付件数	有効回答数	有効回答率
3,000 件	1,207 件	40.2%

集計について：通常、未回答の設問がある回答者を集計対象から除き（欠損処理）集計を行うが、集計対象者数が少なくなることを鑑み、欠損処理を行わずに各設問で集計を実施した。そのため、各設問で不明・無回答者数が異なる。

問1.あなたの年齢、性別、お住まいについておたずねします。

(1) 年齢

選択肢	人数(人)	パーセント(%) n=1,207
20 歳代	85	7.0
30 歳代	171	14.2
40 歳代	191	15.8
50 歳代	183	15.2
60 歳代	193	16.0
70 歳代	204	16.9
80 歳代	148	12.3
90 歳以上	23	1.9
不明・無回答	9	0.8
合計	1,207	100.0

(2) 性別

選択肢	人数(人)	パーセント(%) n=1,207
男性	488	40.4
女性	700	58.0
不明・無回答	19	1.6
合計	1,207	100.0

(3) 居住地区

項目	人数(人)	パーセント(%) n=1,207
練馬地域	273	22.6
光が丘地域	334	27.7
石神井地域	355	29.4
大泉地域	236	19.6
不明・無回答	9	0.7
合計	1,207	100.0

受診・通院について

問2.あなたは最近の1年間に、医療機関を受診・通院したことがありますか。または、現在受診・通院していますか。(単数回答)

医療機関への受診・通院の状況は「受診・通院したことがある、または受診・通院している」(89.3%)が、約90%を占めている。

選択肢	パーセント(%) n=1,207
受診・通院したことがある、または受診・通院している	89.3
受診・通院していない	10.4
不明・無回答	0.3

問3.あなたが、最近の1年間に受診・通院した、または受診・通院している医療機関はどこにありますか。(単数回答)

最近の1年間に受診・通院した、または受診・通院している医療機関の場所は「練馬区内」(72.4%)が、約70%を占めており、次いで「その他」(12.7%)が続いている。

※問2で「受診・通院したことがある、または受診・通院している」と回答した1,078人の回答を集計した。

選択肢	パーセント(%) n=1,078
練馬区内	72.4
その他	12.7
中野区・杉並区・武蔵野市・西東京市	7.4
豊島区・北区・板橋区	6.5
朝霞市・和光市・新座市	0.6
不明・無回答	0.5

問4. 問3でお答えになった医療機関はどこですか。(単数回答)

最近の1年間に受診・通院した、または受診・通院している医療機関は「診療所（医院、クリニック）」（53.7%）が50%以上を占めており、次いで「その他の病院」（28.4%）となっている。

※問4は調査票の設問では1つだけ答える単数回答としたが、複数回答した方がいたため、複数回答も集計することとした。

※問3の「不明・無回答」以外を回答した1,073人の回答を集計した。

選択肢	パーセント(%) n=1,073
診療所（医院、クリニック）	53.7
その他の病院	28.4
順天堂大学医学部附属練馬病院	6.2
練馬光が丘病院	2.6
練馬総合病院	2.5
大泉生協病院	1.7
島村記念病院	1.0
田中脳神経外科病院	0.7
久保田産婦人科病院	0.5
高松病院	0.5
スズキ病院	0.4
関町病院	0.4
大泉病院	0.3
慈雲堂病院	0.3
保谷病院	0.3
陽和病院	0.3
桜台病院	0.2
東海病院	0.2
東大泉病院	0.2
練馬駅リハビリテーション病院	0.1
東京聖徳病院	0.0
ねりま健育会病院	0.0
不明・無回答	3.5

【参考】「その他の病院」の自由記述で多い回答

- ・ 日本大学医学部附属板橋病院（板橋区）
- ・ 東京医科大学病院（新宿区）
- ・ 総合東京病院（中野区）
- ・ 荻窪病院（杉並区）

※5人以上回答のあったものを抽出

※自由記述を記入いただいていないものがあるため参考値とする。

問5. 問 3 でお答えになった医療機関で受診・通院している主な診療科を教えてください。(単数回答)

最近の1年間に受診・通院した、または受診・通院している医療機関の主な診療科は「内科」(37.9%)の割合が多く、次いで「整形外科」(10.1%)、「歯科(歯科口腔外科)」(7.5%)となっている。

※問5は、設問では単数回答としたが複数回答があり、複数回答も集計した。

※問3の「不明・無回答」以外を回答した1,073人の回答を集計した。

選択肢	パーセント(%) n=1,073
内科	37.9
整形外科	10.1
歯科(歯科口腔外科)	7.5
循環器内科	6.2
皮膚科	6.1
耳鼻いんこう科	5.2
眼科	4.4
消化器内科(胃腸内科)	3.5
泌尿器科	2.7
婦人科	2.5
糖尿病内科(代謝内科)	2.4
呼吸器内科	2.3
脳神経外科	2.2
その他	2.2
精神科	1.6
産婦人科	1.4
心療内科	1.3
外科	1.3
乳腺外科	1.3
産科	1.1
神経内科	1.0
消化器外科(胃腸外科)	0.9
腎臓内科	0.8
血液内科	0.7
心臓血管外科	0.7
リハビリテーション科	0.7
リウマチ科	0.6
呼吸器外科	0.5
肛門外科	0.5
小児科	0.4
形成外科	0.3
アレルギー科	0.2
麻酔科	0.2
放射線科	0.1

選択肢	パーセント(%) n=1,073
感染症内科	0.0
気管食道外科	0.0
美容外科	0.0
小児外科	0.0
不明・無回答	1.3

問6. 問 3 でお答えになった医療機関を受診・通院する際の主な交通手段を教えてください。（単数回答）

医療機関を受診・通院する際の主な交通手段は「徒歩（33.9%）が約 30%を占め、次いで「自転車」（26.5%）が続いている。

※問 3 で「不明・無回答」以外を回答した 1,073 人の回答を集計した。

選択肢	パーセント(%) n=1,073
徒歩	33.9
自転車	26.5
電車	17.7
自家用車	9.4
バス	7.2
タクシー	2.7
その他	1.7
不明・無回答	0.9

問7. 問 3 でお答えになった医療機関を選んだ理由を教えてください。（複数回答 3 つまで）

最近の 1 年間に受診・通院した、または受診・通院している医療機関を選んだ理由は「自宅や家族の住居に近い」（44.5%）の割合が多く、次いで「交通の便がよい」（16.9%）と続いている。

※問 3 で「不明・無回答」以外を回答した 1,073 人の回答を集計した。

選択肢	パーセント(%) n=1,073
自宅や家族の住居に近い	44.5
交通の便がよい	16.9
かかりつけ医がいる	16.0
医療機関や医師から紹介された	14.4
専門性が高い医療を提供している	12.2
診療、治療の評判がよい	10.6
家族・知人・友人からのすすめ	10.4
診療日・診療時間が受診しやすい	9.3
診療の待ち時間が短い	7.4

受診・通院について

選択肢	パーセント (%) n=1,073
医療機関の設備が整っているため	6.6
希望する診療科があるため	5.8
その他	5.8
医療機関の規模が大きい（総合病院）	5.7
職場や学校に近い	5.4
複数の診療科を受診できるため	5.3
不明・無回答	1.3

入院について

入院について

問8. あなたは、練馬区にお住まいになってから今までに、医療機関に入院されたことがありますか。（単数回答）

医療機関への入院の状況は「入院したことがある」（48.5%）が約 50%を占めている。

項目	パーセント (%) n=1,207
入院したことがある	48.5
入院したことはない	50.2
不明・無回答	1.3

問9. あなたが、練馬区にお住まいになってから今までで、一番最近に入院された医療機関は、どこにありますか。（単数回答）

一番最近に入院した医療機関の場所は「練馬区内」（39.8%）が約 40%を占めており、次いで「その他」（25.6%）が続いている。

※問8で「入院したことがある」を回答した585人の回答を集計した。

選択肢	パーセント (%) n=585
練馬区内	39.8
その他	25.6
豊島区・北区・板橋区	15.9
中野区・杉並区・武蔵野市・西東京市	14.0
朝霞市・和光市・新座市	3.1
不明・無回答	1.5

問10. 問9でお答えになった医療機関はどちらですか。(単数回答)

一番最近に入院した医療機関は「その他」(57.8%)が、約60%を占めており、次いで「順天堂大学医学部附属病院」(11.6%)、「練馬総合病院」(7.3%)が続いている。

※問9で「不明・無回答」以外を回答した576人の回答を集計した。

選択肢	パーセント(%) n=576
その他	57.8
順天堂大学医学部附属病院	11.6
練馬総合病院	7.3
練馬光が丘病院	5.6
診療所(医院、クリニック)	4.2
スズキ病院	1.7
田中脳神経外科病院	1.6
久保田産婦人科病院	1.4
大泉生協病院	1.0
島村記念病院	0.7
関町病院	0.7
高松病院	0.7
陽和病院	0.5
大泉病院	0.3
慈雲堂病院	0.3
東海病院	0.2
練馬駅リハビリテーション病院	0.2
不明・無回答	4.2

【参考】「その他」の自由記述で多い回答

- ・日本大学医学部附属板橋病院(板橋区)
- ・荻窪病院(杉並区)
- ・東京女子医科大学病院(新宿区)
- ・総合東京病院(中野区)

※10人以上回答のあったものを抽出

※自由記述を記入いただいていないものがあるため参考値とする。

問11. 問9でお答えになった医療機関で受診した主な診療科を教えてください。(単数回答)

一番最近に入院した医療機関の診療科は「整形外科」(11.1%)であり、次いで「内科」(8.0%)、「産婦人科」(7.5%)、「産科」(6.8%)が続いている。

※問11は調査票の設問では1つだけ答える単数回答としたが、複数回答した方がいたため、複数回答も集計をした。

※問9で「不明・無回答」以外を回答した576人の回答を集計した。

選択肢	パーセント(%) n=576
整形外科	11.1
内科	8.0
産婦人科	7.5
産科	6.8
婦人科	6.1
消化器外科(胃腸外科)	5.7
循環器内科	5.6
外科	5.2
泌尿器科	5.2
脳神経外科	5.2
眼科	4.9
消化器内科(胃腸内科)	4.2
その他	3.6
乳腺外科	2.8
肛門外科	2.6
呼吸器内科	2.1
耳鼻いんこう科	2.1
心臓血管外科	1.9
腎臓内科	1.7
呼吸器外科	1.7
精神科	1.6
糖尿病内科(代謝内科)	1.4
皮膚科	1.4
形成外科	0.9
神経内科	0.5
血液内科	0.5
小児科	0.5
心療内科	0.3
リハビリテーション科	0.3
歯科(歯科口腔外科)	0.3
アレルギー科	0.2
リウマチ科	0.2
放射線科	0.2
感染症内科	0.0
気管食道外科	0.0
美容外科	0.0
小児外科	0.0
麻酔科	0.0
不明・無回答	1.9

問12. 問9でお答えになった医療機関を、入院先として選択した理由を教えてください。
(複数回答3つまで)

入院先として医療機関を選択した理由は「医療機関や医師から紹介されたため」(36.1%)が約40%を占めており、次いで「自宅や家族の住居に近い」(18.2%)、「専門性が高い医療を提供しているため」(17.9%)と続いている。

※問9で「不明・無回答」以外を回答した576人の回答を集計した。

選択肢	パーセント(%) n=576
医療機関や医師から紹介されたため	36.1
自宅や家族の住居に近い	18.2
専門性が高い医療を提供しているため	17.9
医療機関の規模が大きい(総合病院)	17.0
交通の便がよい	13.5
救急車で搬送されたため	12.3
診療、治療の評判がよい	11.5
医療機関の設備が整っている	10.2
かかりつけ医がいる	8.2
家族・知人・友人からのすすめ	7.3
その他	7.1
複数の診療科を受診できる	5.6
希望する診療科がある	5.4
職場や学校に近い	1.9
不明・無回答	0.9

問13. 問9でお答えになった医療機関から退院した後の状況を教えてください。(単数回答)

医療機関から退院した後の状況は「完治した」(49.7%)が、約50%を占めており、次いで「自宅に戻り、自宅から医療機関に通院した」(38.0%)が続いている。

※問9で「不明・無回答」以外を回答した576人の回答を集計した。

選択肢	パーセント(%) n=576
完治した	49.7
自宅に戻り、自宅から医療機関に通院した	38.0
他の医療機関(練馬区内)に転院した	2.8
他の医療機関(練馬区外)に転院した	2.8
自宅に戻り、介護サービスを受けた	1.9
介護施設に移った	1.4
自宅に戻り、医師や看護師の定期的な訪問治療を受けた	0.7
不明・無回答	2.8

問14. 問 9 でお答えになった医療機関から退院する際に、困ったことについて教えてください。（複数回答）

医療機関から退院する際に困ったことは「特に苦勞したことはなかった」（71.5%）が約70%を占めている。

※問 9 で「不明・無回答」以外を回答した 576 人の回答を集計した。

選択肢	パーセント(%) n=576
特に苦勞したことはなかった	71.5
その他	9.5
自宅の近くに移りたい医療機関がなかった	3.6
自分や家族が退院後どのようにすればよいか知識がなかった	1.7
家族の受け入れ態勢が整っていなかった	1.4
転院先を自分（または家族）で探さなければならなかった	1.2
介護施設を自分（または家族）で探さなければならなかった	0.9
定期的な訪問治療をしてくれる医師・看護師を見つけることが出来なかった	0.9
介護サービス・施設の利用の仕方が分からなかった	0.7
空きがなく、移りたい医療機関に移れなかった	0.5
利用したい介護サービス・施設が空いてなかった	0.5
不明・無回答	11.8

問15. 仮に、あなたが、命にかかわる重症な病気（がん、心臓病等）で2週間程度の入院が必要であるとします。入院する病院を選ぶ際に、重要と思われる選択肢を選んでください。（複数回答3つまで）

命にかかわる重症な病気入院する病院を選ぶ際に、重要と思われる選択肢は「専門性が高い医療を提供している」（61.5%）の割合が多く、次いで「医療機関の設備が整っている」（41.8%）、「診療、治療の評判がよい」（39.9%）となっている。

選択肢	パーセント(%) n=1,207
専門性が高い医療を提供している	61.5
医療機関の設備が整っている	41.8
診療、治療の評判がよい	39.9
自宅や家族の住居に近い	31.0
医療機関の規模が大きい（総合病院）	24.7
医療機関や医師からの紹介	23.7
交通の便がよい	21.5
複数の診療科を受診できる	8.2
希望する診療科がある	7.9
かかりつけ医がいる	5.2

選択肢	パーセント(%) n=1, 207
家族・知人・友人からのすすめ	3.1
その他	1.4
職場や学校に近い	1.3
不明・無回答	1.1

問16. 仮に、あなたが、命の危険はない病気やケガ（骨折等）で2週間程度の入院が必要であるとします。入院する病院を選ぶ際に、重要と思われる選択肢を選んでください。
（複数回答 3 つまで）

命の危険はない病気やケガで入院する病院を選ぶ際に、重要と思われる選択肢は「自宅や家族の住居に近い」（57.1%）の割合が多く、次いで「診療、治療の評判がよい」（44.2%）、「交通の便がよい」（39.9%）となっている。

選択肢	パーセント(%) n=1, 207
自宅や家族の住居に近い	57.1
診療、治療の評判がよい	44.2
交通の便がよい	39.9
医療機関の設備が整っている	35.0
専門性が高い医療を提供している	32.3
医療機関や医師からの紹介	16.8
医療機関の規模が大きい（総合病院）	13.4
希望する診療科がある	8.9
かかりつけ医がいる	6.5
複数の診療科を受診できる	5.5
家族・知人・友人からのすすめ	4.1
職場や学校に近い	3.8
その他	0.9
不明・無回答	1.0

問17. 仮に、あなたが、手術や治療の後に、リハビリ療養が必要で2か月入院する必要があるとします。入院する病院を選ぶ際に、重要と思われる選択肢を選んでください。
(複数回答 3 つまで)

リハビリ療養が必要で入院する病院を選ぶ際に、重要と思われる選択肢は「自宅や家族の住居に近い」(54.3%)の割合が多く、次いで「専門性が高い医療を提供している」(44.0%)、「診療、治療の評判がよい」(41.3%)となっている。

選択肢	パーセント(%) n=1, 207
自宅や家族の住居に近い	54.3
専門性が高い医療を提供している	44.0
診療、治療の評判がよい	41.3
交通の便がよい	39.9
医療機関の設備が整っている	39.2
医療機関や医師からの紹介	14.4
医療機関の規模が大きい(総合病院)	12.2
複数の診療科を受診できる	5.6
希望する診療科がある	5.3
かかりつけ医がいる	5.1
職場や学校に近い	5.1
家族・知人・友人からのすすめ	3.2
その他	0.8
不明・無回答	1.2

救急医療に関すること

救急医療に関すること

問18. あなたが、練馬区にお住まいになってから今までに、救急医療機関を受診したことがありますか。(単数回答)

救急医療機関の受診状況は「救急医療機関を受診したことはない」(59.0%)が約60%を占めており、救急車の利用がある回答は「年に数回、救急車を利用して受診したことがある」(1.2%)、「過去1～2回、救急車を利用して受診したことがある」(22.6%)となっている。

選択肢	パーセント(%) n=1, 207
年に数回、救急車を利用して受診したことがある	1.2
過去1～2回、救急車を利用して受診したことがある	22.6
救急車を利用したことはないが、年に数回、自力で救急医療機関を受診した	0.8
救急車を利用したことはないが、過去1～2回、自力で救急医療機関を受診した	14.7
救急医療機関を受診したことはない	59.0
不明・無回答	1.7

問19. 問 18 で「救急車を利用したことがある」と答えた方への質問です。救急車を利用した理由を、選んでください。(複数回答)

救急車を利用した理由は「自力で歩ける状態でなかった」(63.9%)の割合が多く、次いで「周りの人(家族、友人、居合わせた人)が通報してくれた」(38.2%)、「生命の危険があると思った」(25.7%)となっている。

※問 18 で「年に数回、救急車を利用して受診したことがある」、「過去 1～2 回、救急車を利用して受診したことがある」を回答した 288 人を回答対象者として集計した。

選択肢	パーセント(%) n=288
自力で歩ける状態でなかった	63.9
周りの人(家族、友人、居合わせた人)が通報してくれた	38.2
生命の危険があると思った	25.7
夜間・休日で診療時間外だった	24.0
軽症か重症かの判断ができなかった	20.1
家族や友人、居合わせた人にすすめられた	9.7
交通事故だった	9.4
どこの病院に行けばよいかわからなかった	9.4
東京消防庁救急相談センター(＃7119)を利用したときにすすめられた	8.3
かかりつけの医師または、医療関係者にすすめられた	6.3
その他	5.2
病院へ連れて行ってくれる人がいなかった	4.5
救急車で病院に行った方が、優先的に診てくれると思った	4.5
交通手段がなかった	3.5
不明・無回答	1.0

その他

問20. 入院した医療機関と退院後に診てもらう在宅医の間など、自分が診療を受けている医療機関同士で自分の診療情報を共有し、診療に役立てることについてどう思いますか。(複数回答 3 つまで)

医療機関同士で診療情報を共有することに対する考えについては「重複する検査や治療を減らせると思う」(81.8%)の割合が多く、次いで「薬の重複や飲み合わせの問題を防げると思う」(65.5%)、「他の医療機関を受診する際に、病歴の説明など不要でよいと思う」(60.6%)となっている。

選択肢	パーセント(%) n=1, 207
重複する検査や治療を減らせると思う	81.8
薬の重複や飲み合わせの問題を防げると思う	65.5
他の医療機関を受診する際に、病歴の説明など不要でよいと思う	60.6
どのような種類の情報が共有されるのか心配である	12.9
誰にまで情報が共有されるのか心配である	11.8
個人情報漏えいするリスクが不安である	8.0
その他	3.4
不明・無回答	5.1

